

科目名	美学特講A
単位数	2.0
担当者	教授 関村 誠
履修時期	前期
履修対象	1・2年
概要	現代の芸術文化の状況に組み込まれ、さらに新たな文化創造に寄与していく造形作家は、文化を成立させている基盤とそこでの人間の感性の特質を捉えつつ、創造活動のあり方に対して批判的に検討を加えていかねばならない。この講義では、こうした思索の深化と批判精神の練成に向けて美学・哲学の諸問題を考察する。芸術制作との関係について、学生個々の立場から口頭発表を行なってもらい議論する。
科目の到達目標	芸術の創作と研究を追求するための美学的問題を理解し、受講生自らの研究の立場から考察を深めることができるようになる。
受講要件	特になし。
事前・事後学修の内容	美学・哲学的な問題を、自らの創造における探究との関連で考えて、他の文献等で思索を深める。
講義内容	以下の項目を講義で扱う。 1前期ガイダンス 2かたち 3型と像 4形式と内容 5模倣理論 6写実と模倣 7うつし 8複製、コピー、模倣 9口頭発表と議論(「かたち」について) 10口頭発表と議論(「うつし」について) 11口頭発表と議論(型の機能について) 12口頭発表と議論(写実の意味について) 13口頭発表と議論(現れの受容について) 14口頭発表と議論(現れの創造について) 15議論の総括
評価方法	レポート。 レポートでは、以下の点を考慮して総合判断する。1. テーマ設定 2. 文献等の検討 3. 独自の洞察 4. 構成力 5. 文章表現力
教科書等	講義の中で参考書を指示する。
担当者プロフィール	東京芸術大学で博士(美術)、ブリュッセル自由大学で哲学博士を取得。古代ギリシアを中心とする哲学・美学を専門としている。主な著書は『像とミーメシス プラトンからの美学』勁草書房、Platon et la question des images, Ousia, Bruxelles.
備考	

科目名	美学特講B
単位数	2.0
担当者	教授 関村 誠
履修時期	後期
履修対象	1・2年
概要	現代の芸術文化の状況に組み込まれ、さらに新たな文化創造に寄与していく造形作家は、文化を成立させている基盤とそこでの人間の感性の特質を捉えつつ、創造活動のあり方に対して批判的に検討を加えていかねばならない。それによって、作家は自らの制作の精神的基礎を固めることができる。この講義では、こうした思索の深化と批判精神の練成に向けて美学・哲学の諸問題を考察する。学生個々の立場から、自分の制作に関わるキーワードについて口頭発表を行なってもらい議論する。
科目の到達目標	芸術の創作と研究を追求するための美学的問題を理解し、受講生自らの研究の立場から考察を深め、言語表現できるようになる。
受講要件	特になし。
事前・事後学修の内容	美学・哲学的な問題を、自らの創造における探究との関連で考えて、他の文献等で思索を深める。
講義内容	以下の項目を講義で扱う。 1後期ガイダンス 2感性 3共通感覚 4口頭発表と議論(共通感覚について) 5芸術と狂気 6口頭発表と議論(芸術と狂気について) 7仮面と顔 8口頭発表と議論(仮面と顔について) 9芸術と精神分析 10口頭発表と議論(芸術と精神分析について) 11芸術と場 12口頭発表と議論(芸術と場について) 13記憶と想像 14口頭発表と議論(記憶と想像について) 15議論の総括
評価方法	レポート。 レポートでは、以下の点を考慮して総合判断する。1. テーマ設定 2. 文献等の検討 3. 独自の洞察 4. 構成力 5. 文章表現力
教科書等	講義の中で参考書を指示する。
担当者プロフィール	東京芸術大学で博士(美術)、ブリュッセル自由大学で哲学博士を取得。古代ギリシアを中心とする哲学・美学を専門としている。主な著書は『像とミーメシス プラトンからの美学』勁草書房、Platon et la question des images, Ousia, Bruxelles.
備考	

科目名	美術史特講(日本)A
単位数	2.0
担当者	准教授 城市 真理子
履修時期	前期
履修対象	1・2年
概要	授業形態《講義》日本の絵画史の基軸となっている「やまと絵」と「漢画」の位相がダイナミックに変化する中世から近世初期の絵画史を主に扱い、絵画が求められた場と価値観のもとでの絵画の主題・表現の変化とその展開の様相について、また、絵師たちの制作手法や意識について考察する。講義と関連して受講者に課題を出す。その課題について、受講者が調べて発表を行う。
科目の到達目標	中世から近世初期の絵画史を多角的に学ぶことで、より深く美術作品を解釈する能力を高める。
受講要件	展覧会鑑賞の小レポート作成のため、入館料(500～1000円程度)等が必要。
事前・事後学修の内容	日本美術の展覧会の鑑賞・日本美術関係の読書を日頃から積極的におこない、美術作品を見る目や知識を養って欲しい。
講義内容	1 概要説明—主題とかたち 2 神仏の表現(1)仏像の図像と尊格・時代様式 3 神仏の表現(2)曼荼羅・垂迹画 4 神仏の表現(3)禅宗絵画の散聖 5 人の表現(1)肖像画 頂相 御影 6 人の表現(2)人物像 文人図様 美人図 7 山水の表現(1)中世のやまと絵と水墨画の山水図 8 山水の表現(2)瀟湘八景と西湖 9 説話画・物語絵の主題と図様 10 動物の表現と意味—絵画と工芸— 11 植物の表現と意味—絵画と工芸— 12 発表とディスカッション(1)道釈人物 13 発表とディスカッション(2)山水 14 発表とディスカッション(3)花鳥 15 前期のまとめ
評価方法	①期末レポート 60% ②授業期間中の課題(発表)等 40%
教科書等	参考書等は授業中に紹介する。また、授業用プリントを配布する。
担当者プロフィール	日本美術史、特に中世・近世絵画を専門とする。博物館・美術館学芸員として、古美術は幅広いジャンルを扱った経験がある。
備考	一部、特別講師による講義が入ることがある。

科目名	美術史特講(日本)B
単位数	2.0
担当者	准教授 城市 真理子
履修時期	後期
履修対象	1・2年
概要	授業形態《講義》日本の絵画史の基軸となっている「やまと絵」と「漢画」の位相がダイナミックに変化する中世から近世初期の絵画史を主に扱い、絵画が求められた場と価値観のもとでの絵画の主題・表現の変化とその展開の様相について、また、絵師たちの制作手法や意識について考察する。講義と関連して受講者に課題を出す。その課題について、受講者が調べて発表を行う。
科目の到達目標	中世から近世初期の絵画史を多角的に学ぶことで、より深く美術作品を解釈する能力を高める。
受講要件	展覧会鑑賞の小レポート作成のため、入館料(500～1000円程度)等が必要。
事前・事後学修の内容	日本美術の展覧会の鑑賞・日本美術関係の読書を日頃から積極的におこない、美術作品を見る目や知識を養って欲しい。
講義内容	1 狩野永納『本朝画史』にみる中世近世絵画の見取り図 2 価値づけの歴史 3 絵画の形状と表現—やまと絵と漢画 4 障壁画・屏風絵 5 絵巻・図巻 6 画帖・扇面画 7 掛け軸 8 言葉と絵画(1)—物語絵・説話画 9 言葉と絵画(2)—詩画軸 10 洛中洛外図と風俗画—名所絵・遊楽図・美人図 等 11 異国のイメージ—南蛮・天竺・中国 等 12 発表とディスカッション(1)形態と表現 13 発表とディスカッション(2)主題と表現 14 発表とディスカッション(3)言葉と美術 15 前期のまとめ
評価方法	①期末レポート 60% ②授業期間中の課題(発表)等 40%
教科書等	参考書等は授業中に紹介する。また、授業用プリントを配布する。
担当者プロフィール	日本美術史、特に中世・近世絵画を専門とする。博物館・美術館学芸員として、古美術は幅広いジャンルを扱った経験がある。
備考	一部、特別講師による講義が入ることがある。

科目名	美術史特講(東洋・工芸)B
単位数	2.0
担当者	非常勤講師 後藤 恒
履修時期	前期(集中)
履修対象	1・2年次
概要	東南アジア大陸部にあたるインドシナ半島には古来、民族や信仰を異にする様々な国家が興亡し、複雑な歴史が紡がれる過程で多様な文化が育まれてきた。その遺産として今も私たちを魅了する遺跡、彫刻、工芸の数々は、それぞれどのように生まれ、何を私たちに語ってくれるのか。タイ、カンボジア、ミャンマーにおける仏教及びヒンドゥー教の美術を軸として、歴史に名を刻む覇王の信仰から名もなき人々の日常の信仰まで、インドシナ半島に展開した宗教美術の歴史を辿る。【授業形態:講義】
科目の到達目標	日本ではあまり知る機会のないインドシナ半島の美術、その造形的魅力について理解を深める。
受講要件	芸術学研究科所属
事前・事後学修の内容	事前にアジアの地図を熟覧しておかれない。
講義内容	第1回 オリエンテーション「東洋」「美術史」「アジア」 第2回 仏教東漸 北伝仏教の美術 第3回 仏教東漸 南伝仏教の美術 第4回 先史のインドシナ半島 第5回 タイの美術Ⅰ ドヴァーラヴァティー王国時代 第6回 タイの美術Ⅱ スコータイ王朝時代 第7回 タイの美術Ⅲ アユタヤ王朝時代 第8回 インドシナ半島の陶磁 第9回 仏像とヒンドゥー神像 第10回 ブッダへの祈り「つくる」「ささげる」 第11回 カンボジアの美術Ⅰ 前アンコール時代 第12回 カンボジアの美術Ⅱ アンコール王朝時代 第13回 カンボジアの美術Ⅲ アンコール・ワット美術とはなにか 第14回 ミャンマーの美術Ⅰ パガン王朝時代 第15回 ミャンマーの美術Ⅱ 少数民族の造形
評価方法	授業態度と筆記試験による。
教科書等	なし
担当者プロフィール	福岡市美術館学芸員。東南アジアの古美術を中心に様々な展覧会企画を行っている。『掌のほとけ—インドシナ半島の埴仏』(2008)、『中国陶磁の5000年—森田コレクション』(2010)、『緑青の美—東南アジアの青銅美術展』(2013)、『アンコール・ワットへのみち—神々の彫像』(2015)など。
備考	

科目名	美術史特講(西洋)A
単位数	2.0
担当者	非常勤講師 京谷 啓徳
履修時期	前期
履修対象	1・2年次
概要	キリスト教主題とギリシア・ローマ神話主題の絵画は、近代以前に描かれた西洋絵画の大半を占めるといっても過言でない。この講義では、おもにルネサンス期の作例を取り上げつつ、図像学的観点から、これらキリスト教主題およびギリシア・ローマ神話主題の絵画について考察する。【授業形態:講義】
科目の到達目標	ルネサンス絵画の主題について理解する。
受講要件	特になし。
事前・事後学修の内容	事前・事後学習のためのプリントを配布する。
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 聖書の視覚化——ヴェネツィア、サン・マルコ聖堂の《天地創造》と《原罪》 3. 主題と変奏——ルネサンスの《受胎告知図》をめぐって 4. 『ダ・ヴィンチ・コード』とレオナルド《最後の晩餐》 5. ルネサンス絵画に見るキリスト教の死生観 6. ボッティチェリの神曲素描——異時同図表現について1 7. 都市と守護聖人——カルパッチョ《聖マルコのライオン》をめぐって 8. キリスト教中世における異教神の残存 9. ボッティチェリの神話画1——《ヴィーナスの誕生》と《プリマヴェーラ》 10. ボッティチェリの神話画2——《パラスとケンタウロス》と《ヴィーナスとマルス》 11. 《ナスタジオ・デリ・オネスティの物語》——異時同図について2 12. 神々の館ヴィッラ・ファルネジーナ1——ガラテアの勝利 13. 神々の館ヴィッラ・ファルネジーナ2——プシュケの開廊 14. 神話画尽し——パラッツォ・ファルネーゼの神話画のギャラリー 15. まとめ
評価方法	レポートによる。
教科書等	講義中に紹介する。
担当者プロフィール	九州大学准教授。博士(文学)。イタリア美術史を専門とする。主な著書は、『ボルソ・デステとスキファノイア壁画』『もっと知りたいボッティチェリ』『凱旋門と活人画 儂きスペクタクルの力』
備考	

科目名	美術史特講(現代)A
単位数	2.0
担当者	准教授 石松 紀子
履修時期	前期
履修対象	1・2年次
概要	主として第二次世界大戦後にアメリカやヨーロッパで書かれた主要な論文を読み、現代美術に関わる思想や動向を検討する。批評的・思想的な文脈の理解に重点を置く。(授業形態:演習)
科目の到達目標	20世紀後半の美術を言説との関係で理解し、作家が置かれた現在の状況について批評的な視点で考察する力を身につける。
受講要件	特になし。
事前・事後学修の内容	指定されたテキストを事前に読む。
講義内容	各講義で論文を読み、検討を加えていく。参加者は学期中に1回は発表を担当する。 1. イントロダクション 2. ガエタン・ピコン「落選者展覧会」(1974年) 3. ヴォルター・ベンヤミン「複製技術時代の芸術作品」(1936年) 4. クレメント・グリーンバーグ「アヴァンギャルドとキッチュ」(1939年) 5. クレメント・グリーンバーグ「モダニズムの絵画」(1961年) 6. マイケル・フリード「芸術と客体性」(1967年) 7. ロラン・バルト「作者の死」(1968年) 8. ジャン・ボードリヤール「シミュラクルの先行」(1978年) 9. ロザリンド・クラウス「展開された場における彫刻」(1979年) 10. フレドリック・ジェームソン「ポストモダニズムと消費社会」(1982年) 11. アーサー・ダント「芸術の終焉の後の芸術」(1995年) 12. アーサー・ダント「モダン、ポストモダン、コンテンポラリー」 13. ニコラ・ブリオー「1990年代の芸術」(2002年) 14. ボリス・グロイス「生政治時代の芸術」(2003年) 15. クレア・ビショップ「敵対と関係性の美学」(2004年)
評価方法	発表・課題(50%)、レポート提出(50%)
教科書等	テキストや参考書については講義中に紹介・指示する
担当者プロフィール	
備考	

科目名	美術史特講(現代)B
単位数	2.0
担当者	准教授 石松 紀子
履修時期	後期
履修対象	1・2年
概要	本講義は2部構成からなり、前半は日本の現代美術、後半はアジアの現代美術を取り上げる。前半は、第二次世界大戦後から現在までに書かれた美術批評を読みながら、日本の現代美術史の展開を概観する。後半は、アジアに関わる美術批評等を読みながら、アジアの現代美術の状況を理解する。(授業形態:演習)
科目の到達目標	第二次世界大戦後から現在までの日本とアジアの現代美術の展開を理解する。
受講要件	特になし
事前・事後学修の内容	指定されたテキストを事前に読む。
講義内容	各講義で論文を読み、検討を加えていく。参加者は学期中に1回は発表を担当する。 1. イントロダクション 2. 1940年代(戦争画) 3. 1950年代(リアリズム) 4. 1950年代(具体) 5. 1960年代(反芸術) 6. 1960年代(ハイレッドセンター) 7. 1970年代(万博) 8. 1970年代(もの派) 9. 1980年代(ニューペインティング他) 10. 1990年代(ネオポップ他) 11. 2000年以降(スーパーフラット) 12. ポストコロニアリズム 13. アジアの現代美術1(他者について) 14. アジアの現代美術2(福岡アジア美術館について) 15. アジアの現代美術3(展覧会について)
評価方法	発表・課題(50%)、レポート提出(50%)
教科書等	テキストや参考書については講義中に紹介・指示する。
担当者プロフィール	
備考	

科目名	専門語学演習(英語)B
単位数	1.0
担当者	准教授 石松 紀子
履修時期	後期
履修対象	1年次
概要	海外での活動や海外からの芸術家との交流を想定し、英語で発信する力を強化する。前期で身につけた英語表現を駆使して、自分の作品を英語で描写、説明できるようになることをこの授業の目標とする。(授業形態:演習)
科目の到達目標	英語で自分の作品や研究について説明や執筆することができる。
受講要件	造形芸術専攻所属
事前・事後学修の内容	本授業で扱った英語の資料などを使い、繰り返し読む、聞く、話す、書くことで英語力を身につける。
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. リスニング & ディスカッション(欧米の美術について) 3. リスニング & ディスカッション(欧米の美術について) 4. リスニング & ディスカッション(日本の美術について) 5. リスニング & ディスカッション(アジアの美術について) 6. リーディング & ディスカッション(欧米の美術について) 7. リーディング & ディスカッション(欧米の美術について) 8. リーディング & ディスカッション(日本・アジアの美術について) 9. スピーキング & ディスカッション(自分が鑑賞・展示した展覧会について) 10. スピーキング & ディスカッション(自分が好きな作家・作品について) 11. スピーキング & ディスカッション(自分の作品・研究について) 12. 英語プレゼンテーションの準備 13. 英語プレゼンテーション(各自) 14. 英語プレゼンテーション(各自) 15. ライティングについて
評価方法	発表・課題(50%)、レポート提出(50%)
教科書等	授業中に適宜提示
担当者プロフィール	
備考	

科目名	専門語学演習(英語)A
単位数	1.0
担当者	准教授 石松 紀子
履修時期	前期
履修対象	1年次
概要	現代美術に関わるトピックを扱いながら、スピーキング、リスニング、リーディング、ライティングの英語力向上につなげる。グループ・ワークをととして積極的に意見交換を行い、英語を使用することに慣れる。(授業形態:演習)
科目の到達目標	1. 英語で作家や作品について理解し、意見交換することができる。 2. 英語でプレゼンテーションすることができる。 3. 英語でエッセイを書くことができる。
受講要件	造形芸術専攻1年次必修
事前・事後学修の内容	本授業で扱った英語の資料などを使い、繰り返し読む、聞く、話す、書くことで英語力を身につける。
講義内容	1. イントロダクション(アイス・ブレイク) 2. ノートの取り方について 3. リスニング & ディスカッション(欧米の美術について) 4. リスニング & ディスカッション(欧米の美術について) 5. リスニング & ディスカッション(日本・アジアの美術について) 6. スキミング & スキャニングについて 7. リーディング & ディスカッション(欧米の美術について) 8. リーディング & ディスカッション(欧米の美術について) 9. リーディング & ディスカッション(日本・アジアの美術について) 10. 英語プレゼンテーションについて 11. 英語プレゼンテーション(グループ)の準備 12. 英語プレゼンテーション(各グループ) 13. 英語プレゼンテーション(各グループ) 14. ライティングについて 15. エッセイ作成準備
評価方法	発表・課題(50%)、レポート提出(50%)
教科書等	授業中に適宜提示
担当者プロフィール	
備考	なし

科目名	造形総合演習 I
単位数	1.0
担当者	教授 関村 誠、准教授 城市 真理子、准教授 石松 紀子
履修時期	後期
履修対象	1年
概要	報告書や論文を執筆するための基本的な方法論を学び、造形芸術の創作活動を意義づける理論研究のための論理性と知的蓄積を身につけるための演習。
科目の到達目標	表現者として、あるいは研究者として、自らの思索を理論的に構築する基礎能力を身につける。
受講要件	特になし。
事前・事後学修の内容	自らの研究の方向を常に反省し、文献の調査などを積極的に進める。
講義内容	次の項目を授業で扱う。 1 論文や報告書作成のための手順、形式、構成、文献検索、資料調査等の基本的なスキル習得。 2 学生が自ら設定したテーマに即しての研究遂行への指導。 3 学生による研究成果のレポート作成。
評価方法	次の5つの事項について総合的に評価する。 1 テーマ。問題意識の明確さ。 2 文献的的確性。調査研究の質、引用や参照の仕方。 3 オリジナリティ。内省する力と自己の思索を展開する力。 4 構成力。論点や論旨の整備、論述の整序、説得性。 5 表現力。整合性のある明晰な文章。
教科書等	論文の書き方を説明した参考書は数多く出版されている。 一冊は読んでみてもよい。 保坂弘司「レポート・小論文・卒論の書き方」講談社学術文庫 1978年 澤田昭夫「論文の書き方」講談社学術文庫 1977年 古郡延治「論文・レポートのまとめ方」ちくま新書 1997年 齊藤 孝「学術論文の技法 第2版」日本エディタースクール出版部 1998年 山内志郎「ぎりぎり合格への論文マニュアル」平凡社新書 2001年 樋口裕一「やさしい文章術 レポート・論文の書き方」中公新書ラクレ 2002年 河野哲也「レポート・論文の書き方入門 第3版」慶応義塾大学出版会 2002年 戸田山和久「論文の教室 レポートから卒論まで」NHKブックス 2002年 小笠原喜康「大学生のためのレポート・論文術」講談社現代新書 2002年 小笠原喜康「インターネット完全活用編 大学生のためのレポート・論文術」講談社現代新書 2003年 江下雅之「レポートの作り方」中公新書 2003年 齋藤 孝「原稿用紙10枚を書く力」だいわ文庫 2007年
担当者プロフィール	
備考	

科目名	造形総合演習Ⅱ
単位数	1.0
担当者	教授 関村 誠、准教授 城市 真理子、准教授 石松 紀子
履修時期	前期
履修対象	2年
概要	報告書や論文を執筆するための基本的な方法論を学び、造形芸術の創作活動を意義づける理論研究のための論理性と知的蓄積を身につけるための演習。
科目の到達目標	表現者として、あるいは研究者として、自らの思索を理論的に構築する基礎能力を身につける。
受講要件	特になし。
事前・事後学修の内容	自らの研究の方向を常に反省し、文献の調査などを積極的に進める。
講義内容	次の項目を授業で扱う。 1 論文や報告書作成のための手順、形式、構成、文献検索、資料調査等の基本的なスキル習得。 2 学生が自ら設定したテーマに即しての研究遂行への指導。 3 学生による研究成果のレポート作成。
評価方法	次の5つの事項について総合的に評価する。 1 テーマ。問題意識の明確さ。 2 文献的的確性。調査研究の質、引用や参照の仕方。 3 オリジナリティ。内省する力と自己の思索を展開する力。 4 構成力。論点や論旨の整備、論述の整序、説得性。 5 表現力。整合性のある明晰な文章。
教科書等	論文の書き方を説明した参考書は数多く出版されている。 一冊は読んでみてもよい。 保坂弘司「レポート・小論文・卒論の書き方」講談社学術文庫 1978年 澤田昭夫「論文の書き方」講談社学術文庫 1977年 古郡延治「論文・レポートのまとめ方」ちくま新書 1997年 齊藤 孝「学術論文の技法 第2版」日本エディタースクール出版部 1998年 山内志郎「ぎりぎり合格への論文マニュアル」平凡社新書 2001年 樋口裕一「やさしい文章術 レポート・論文の書き方」中公新書ラクレ 2002年 河野哲也「レポート・論文の書き方入門 第3版」慶応義塾大学出版会 2002年 戸田山和久「論文の教室 レポートから卒論まで」NHKブックス 2002年 小笠原喜康「大学生のためのレポート・論文術」講談社現代新書 2002年 小笠原喜康「インターネット完全活用編 大学生のためのレポート・論文術」講談社現代新書 2003年 江下雅之「レポートの作り方」中公新書 2003年 齋藤 孝「原稿用紙10枚を書く力」だいわ文庫 2007年
担当者プロフィール	
備考	

科目名	造形応用特別研究
単位数	2.0
担当者	博士前期課程指導教員
履修時期	通年
履修対象	1・2年次
概要	大学設置の理念に照らし合わせ、国際的視野に立ち、地域の文化振興を担う活動を実践していくことで、具体的、実質的な創作活動を行えるプロデュース能力を養成し、芸術分野の人材を育成する。 学外組織との連携による地域連携活動、地域貢献を目的とした芸術分野のボランティア活動、海外での創作発表や海外研究者との共同作業を通じた国際連携活動、企業との積極的なインターンシップなどの活動など、各種プロジェクトを自ら創造的に企画し、創作活動の幅を広げる。
科目の到達目標	多様な芸術の発表や方法を研究し、将来の独自の芸術活動や発表活動を行うための横断的な知識を身につけ、地域連携、産官学連携、国際交流に対応できる幅広い芸術活動を促す。 また、大学内では対応できないような、より実践的、応用的活動について、自らのクリエイティビティー育成に資する活動を促し、地域連携、国際連携における共同企画事業等を積極的に運営する能力を養い自身のキャリア形成に繋げる。
受講要件	主たる指導教員と相談の上、「研究計画書」を作成し、事務局教務学生室へ提出する。プロジェクトは、主たる指導教員の助言・指導を受けて実施すること。プロジェクトが終了したときは、実施者は速やかに「研究報告書」を主たる指導教員へ提出すること。 また、プロジェクトが長期間に渡り、年次の跨るものについては、指導教員と相談のうえ適切な時期に履修の届出を行うこと。
事前・事後学修の内容	国際的、社会的環境の中で、自らの視点により、独自性のあるプロジェクト等の創造的芸術活動を積極的にプロデュースし、地域的、社会的、国際的意義を見出せるようにする。 また本学建学の理念と照らし合わせ、将来を展望する重要な位置づけと考えている教科であることから、積極的な修得を心掛けるようにする。
講義内容	各プログラムごとに、2単位の授業計画に沿って行なう。 ・芸術分野における地域連携やボランティアなど社会的芸術活動のプロデュース ・芸術分野における創造的、社会的、国際的プロジェクトの積極的な運営 ・大学間交流・海外の大学との教員および学生交換プログラムにおける、研究授業、ワークショップの積極的プロデュースや、運営 ・企業とのコラボレーションによるインターンシップ ・これらの活動を論文形式でまとめ、プレゼンテーションを行う。
評価方法	主たる指導教員は、提出された「研究報告書」の内容を基に成績を総合的に評価する。
教科書等	必要に応じて、随時提示する。
担当者プロフィール	
備考	

科目名	日本画研究 I
単位数	8.0
担当者	准教授 今村 雅弘 准教授 荒木 亨子
履修時期	通年
履修対象	博士前期課程絵画研究 日本画1年
概要	<p>授業形態:実習 課題:日本画制作、人体デッサン、技法材料研究、展示演習 ・学部で修得した基礎研究を発展させるべく50号から120号程度の作品制作を、年間5～6点以上行う。 ・前期、後期共に人体デッサン期間を設け、造形性、構成力の修練を図る。</p> <p>・素材、技法、材料について研究する。 ・後期に個展形式での展示演習を行い、展示空間による表現方法の違い、作品発表の基礎的な技術と展示空間における構成について学ぶ。</p>
科目の到達目標	日本画制作を主体とするカリキュラムのなかで、表現、技法及び材料の理解と造形感覚を修得する。日本画制作を通して現代における個性的な創造力の育成を図るとともに精神性の大切さを学ぶ。
受講要件	博士前期課程絵画研究 日本画研究Aに所属する学生であること。
事前・事後学修の内容	研究計画を良く検討し、デッサン・スケッチ等制作の準備を怠らないこと。
講義内容	<p>前期 日本画制作 ・2年間の研究計画書に基づいてエスキースを作成し、担当教員と個別に検討する。 決定した方針に基づいて以下の課題を制作し過程を確認、検討を重ね完成し、講評を行う。</p> <p>課題1 日本画制作(100号程度) 1 素描・デッサン 制作計画【下図、基底材選定 等】、制作準備【パネル、基底材、描画材 等】 2 人体デッサン【研究テーマに沿ったモデル、ポーズの設定、クロッキーによる人体のフォルム、動きの研究】 3 日本画制作(小下図、大下図)【技法・材料研究、造形性、表現力についての研究】 4 日本画制作(彩色)【技法・材料研究、造形性、表現力についての研究】 5 日本画制作(彩色)【技法・材料研究、造形性、表現力についての研究】 講評会【作品プレゼンテーション、客観的な自己作品評価の研究】</p> <p>課題2 日本画制作(50号程度) ※材料研究 通常使用する基底材と違う素材で制作する。(絹本、板絵彩色等) 6 素描・デッサン 制作計画【下図、基底材選定 等】、制作準備【パネル、基底材、描画材 等】 7 日本画制作(小下図、大下図)【技法・材料研究、造形性、表現力についての研究】 8 日本画制作(彩色)【技法・材料研究、造形性、表現力についての研究】 9 人体デッサン【研究テーマに沿ったモデル、ポーズの設定、クロッキーによる人体のフォルム、動きの研究】 10 日本画制作(彩色)【技法・材料研究、造形性、表現力についての研究】 講評会【作品プレゼンテーション、客観的な自己作品評価の研究】</p> <p>課題3 日本画制作(100号程度) ※材料研究 通常使用する基底材と違う素材で制作する。(絹本、板絵彩色等) 11 素描・デッサン 制作計画【下図、基底材選定 等】、制作準備【パネル、基底材、描画材 等】 12 日本画制作(小下図、大下図)【技法・材料研究、造形性、表現力についての研究】 13 日本画制作(転写、骨描)【技法・材料研究、造形性、表現力についての研究】 14 日本画制作(彩色)【技法・材料研究、造形性、表現力についての研究】 15 日本画制作(彩色)【技法・材料研究、造形性、表現力についての研究】 16 日本画制作(彩色)【技法・材料研究、造形性、表現力についての研究】 講評会【作品プレゼンテーション、客観的な自己作品評価の研究】</p> <p>後期 ・前期の研究内容及び課題作品をふまえ、研究テーマを検討しながら以下の制作を行う。 ・制作過程を確認、検討を重ね完成し、講評を行う。 ・人体デッサン ・150号以上の制作 ・50号程度の制作 ・講評はB研究室の教員、学生と合同で研究会を行う。 ・展示演習</p> <p>課題4 日本画制作(150号以上) 17 人体デッサン【研究テーマに沿ったモデル、ポーズの設定、クロッキーによる人体のフォルム、動きの研究】 18 素描・デッサン 制作計画【下図、基底材選定 等】 19 制作準備【パネル、基底材、描画材 等】 20 日本画制作(小下図、大下図)【技法・材料研究、造形性、表現力についての研究】 21 人体デッサン【研究テーマに沿ったモデル、ポーズの設定、クロッキーによる人体のフォルム、動きの研究】 22 日本画制作(大下図)【技法・材料研究、造形性、表現力についての研究】</p>

	<p>23 日本画制作(転写、骨描)【技法・材料研究、造形性、表現力についての研究】 24 日本画制作(彩色)【技法・材料研究、造形性、表現力についての研究】 25 日本画制作(彩色)【技法・材料研究、造形性、表現力についての研究】 26 日本画制作(彩色)【技法・材料研究、造形性、表現力についての研究】 27 日本画制作(彩色)【技法・材料研究、造形性、表現力についての研究】 講評会【作品プレゼンテーション、客観的な自己作品評価の研究】</p> <p>課題5 展示演習 本学資料館を使用した実践的な展示演習 28 展示計画【資料館下見、使用機材下見、展示形態検討】 展示【作品選定、テーマ設定、リーフレット・DM等検討、展示実習】 講評会【展覧会・作品プレゼンテーション、客観的な自己作品評価の研究】</p> <p>課題6 日本画制作(50号程度) 29 素描・デッサン 制作計画【下図、基底材選定等】、制作準備【パネル、基底材、描画材等】 30 日本画制作(小下図、大下図)【技法・材料研究、造形性、表現力についての研究】 31 日本画制作(彩色)【技法・材料研究、造形性、表現力についての研究】 32 日本画制作(彩色)【技法・材料研究、造形性、表現力についての研究】 講評会【作品プレゼンテーション、客観的な自己作品評価の研究】</p>
評価方法	<p>通常実習中の取り組み姿勢、理解度、成果を実習の各段階ごとにチェックし評価の基準とする。提出作品により造形力、表現技術の到達度を点数化し評価する。実習を通して観察力と基礎的な表現技術を習得し、作品提出する事を単位取得(可)の条件とする。さらに作品に感性の豊かさや表現の的確さが認められるものを(良)、優れたものを(優)、特に優れたものを(秀)とする。</p>
教科書等	<p>個別指導の中で必要に応じて担当教員が提示。</p>
担当者プロフィール	<p>今村雅弘 創画会会員 荒木亨子 創画会会員</p>
備考	

科目名	日本画研究Ⅱ
単位数	8.0
担当者	准教授 今村 雅弘 准教授 荒木 亨子
履修時期	通年
履修対象	博士前期課程絵画研究 日本画2年
概要	日本画研究Ⅰで学んだ成果をさらに発展させるべく120号以上1点または80号程度2点の作品制作を行う。また博士前期課程の集大成として150号～200号程度の作品制作を行う。前期、後期共に人体デッサン期間を設けている。
科目の到達目標	日本画研究Ⅰの成果を踏まえ、的確な造形性や精神性の更なる充実を図る。
受講要件	日本画研究Ⅰを単位修得していること。
事前・事後学修の内容	研究計画を良く検討し、デッサン・スケッチ等制作の準備を怠らないこと。
講義内容	<p>前期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究計画書に基づいてエスキースを作成し、担当教員と個別に検討する。 ・決定した方針に基づいて以下の課題を制作し過程を確認、検討を重ね完成し、講評を行う。 ・人体デッサン ・120号以上1点または80号程度2点の作品制作 <p>課題1 日本画制作(120号以上1点または80号程度2点)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 素描・デッサン【課題1に対しての取材研究】 2 人物デッサン【研究内容に則した素描、クロッキーを行う】 3 制作計画【下図、基底材選定等】、制作準備【パネル、基底材、描画材等】 4 日本画制作(下図、大下図)【技法・材料研究、造形性、表現力についての研究】 5 日本画制作(大下図)【技法・材料研究、造形性、表現力についての研究】 6 日本画制作(転写、骨描)【技法・材料研究、造形性、表現力についての研究】 7 日本画制作(地塗り)【技法・材料研究、造形性、表現力についての研究】 8 日本画制作(彩色)【技法・材料研究、造形性、表現力についての研究】 9 日本画制作(彩色)【技法・材料研究、造形性、表現力についての研究】 <p>中間講評会【作品プレゼンテーション、客観的な自己作品評価の研究】</p> <ol style="list-style-type: none"> 10 人物デッサン【研究内容に則した素描、クロッキーを行う】 11 日本画制作(彩色)【技法・材料研究、造形性、表現力についての研究】 12 日本画制作(彩色)【技法・材料研究、造形性、表現力についての研究】 13 日本画制作(彩色)【技法・材料研究、造形性、表現力についての研究】 14 日本画制作(彩色)【技法・材料研究、造形性、表現力についての研究】 15 日本画制作(彩色)【技法・材料研究、造形性、表現力についての研究】 16 日本画制作(彩色、仕上げ)【技法・材料研究、造形性、表現力についての研究】 <p>講評会【作品プレゼンテーション、客観的な自己作品評価の研究】</p> <p>後期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究テーマを検討しながら以下の修了制作を行う。 ・決定した方針に基づいて以下の課題を制作し過程を確認、検討を重ね完成させる ・人体デッサン ・150号～200号程度の修了制作 <p>課題2 日本画制作(150号～200号程度)</p> <ol style="list-style-type: none"> 17 人物デッサン【研究内容に則した素描、クロッキーを行う】 18 素描・デッサン【課題2に対しての取材研究】 19 制作計画【下図、基底材選定等】、制作準備【パネル、基底材、描画材等】 20 日本画制作(下図、大下図)【技法・材料研究、造形性、表現力についての研究】 21 人物デッサン【研究内容に則した素描、クロッキーを行う】 22 日本画制作(大下図)【技法・材料研究、造形性、表現力についての研究】 23 日本画制作(転写、骨描)【技法・材料研究、造形性、表現力についての研究】 24 日本画制作(地塗り)【技法・材料研究、造形性、表現力についての研究】 25 日本画制作(彩色)【技法・材料研究、造形性、表現力についての研究】 <p>中間講評会【作品プレゼンテーション、客観的な自己作品評価の研究】</p> <ol style="list-style-type: none"> 26 日本画制作(彩色)【技法・材料研究、造形性、表現力についての研究】 27 日本画制作(彩色)【技法・材料研究、造形性、表現力についての研究】 28 日本画制作(彩色)【技法・材料研究、造形性、表現力についての研究】 29 日本画制作(彩色)【技法・材料研究、造形性、表現力についての研究】 30 日本画制作(彩色)【技法・材料研究、造形性、表現力についての研究】 31 日本画制作(彩色)【技法・材料研究、造形性、表現力についての研究】 32 日本画制作(彩色、装潢、額装)【技法・材料研究、造形性、表現力についての研究】 <p>作品提出</p>
評価方法	通常実習中の取り組み姿勢、理解度、成果を実習の各段階ごとにチェックし評価の基準とする。提出作品により造形力、表現技術の到達度を点数化し評価する。実習を通して観察力と基礎的な表現技術を習得し、作品提出する事を単位取得(可)の条件とする。さらに作品に感性の豊かさや表現の的確さが認められるものを(良)、優れたものを(優)、特に優れたものを(秀)とする。
教科書等	個別指導の中で必要に応じて担当教員が提示。

担当者プロフィール	今村雅弘 創画会会員 荒木亨子 創画会会員
備考	

科目名	日本画研究(含古典研究) I
単位数	8.0
担当者	教授 藁谷 実 准教授 前田 力
履修時期	通年
履修対象	博士前期課程絵画研究 日本画1年
概要	授業形態:実習 設定される実習課題:古典作品模写、自由制作 前期 紙本または絹本の模写1点と壁画の模写1点。 後期 自由課題の制作。
科目の到達目標	・個々の絵画的命題をより追求し、独創性豊かな表現を実現するための自主的研究姿勢を養うことを目指す。 ・模写においては古典作品に用いられた素材、技法に対する高度な研究とその造形を支えた時代精神、絵画思想への洞察を通じて広く美術表現への理解を深める。
受講要件	博士前期課程絵画研究 日本画研究Bに所属している学生であること。
事前・事後学修の内容	・模写においては模本に関連する時代背景を研究し、様式、技法材料実習など研究する。 ・日本画制作においては随時取材、資料収集に努め、小下図等を準備。
講義内容	課題1 現状模写 ・主として東洋画古典作品の現状模写を行う。原本の表現・技法・材料について研究する。各自の調査に基づき基底材の選定、使用された材料を特定あるいは推定する。 絹本 1、模本準備、方針の設定【絹及び紙の選択、トリミング】 2、薄美濃紙にドーサ引き、仮張り 3、上げ写し 4、絹の下地処理、張り込み 5、絹上げ、彩色 6、裏打ち 紙本 7、模本準備、方針の設定【紙の選択、トリミング】 8、薄美濃紙にドーサ引き、仮張り 9、上げ写し 10、裏打ち、張り込み 11、彩色 12、講評会【作品プレゼンテーション(学生)、講評(教員)】 課題2 日本画制作 日本画制作「自由制作」(100号程度) 13、素描、スケッチ・制作計画【小下図、大下図等】・制作準備【パネル、基底材、描画材等】 14、日本画制作【技法・材料研究、表現性についての研究】 15、講評会【作品プレゼンテーション(学生)、講評(教員)】
評価方法	通常実習中の取り組み姿勢、理解度を実習の各段階ごとにチェックし評価の基準とする。提出作品により造形力、表現技術の到達度を点数化し評価する。実習を通して観察力と基礎的な表現技術を習得し、作品提出する事を単位取得(可)の条件とする。さらに作品に感性の豊かさや表現的的確さが認められるものを(良)、優れたものを(優)、特に優れたものを(秀)とする。
教科書等	模本は本学芸術資料館所蔵品や、日本画専攻所有の資料を必要に応じて提示する。
担当者プロフィール	藁谷 実・日本美術院同人 前田 力・日本美術院特待
備考	

科目名	日本画研究(含古典研究)Ⅱ
単位数	8.0
担当者	教授 藁谷 実 准教授 前田 力
履修時期	通年
履修対象	博士前期課程絵画研究 日本画1年
概要	授業形態:実習 設定される実習課題:古典絵画修了模写、修了制作 ・模写制作による古典研究及び、150号相当の修了制作。
科目の到達目標	日本画研究(含古典研究)Ⅰにおける成果を踏まえ、その継続的研究とさらなる展開を図る。 ・模写においては古典作品に用いられた素材、技法に対する高度な研究とその造形を支えた時代精神、絵画思想への洞察を通じて広く美術表現への理解を深める。 ・個々の絵画的命題をより追求し、独創性豊かな表現を実現するための自主的研究姿勢を養うことを目指す。
受講要件	博士前期課程絵画研究 日本画研究Bに所属している学生であること。
事前・事後学修の内容	・模写においては模本に関連する時代背景を研究し、様式、技法材料実習など研究する。 ・日本画制作においては随時取材、資料収集に努め、小下図等を準備。
講義内容	課題1 現状模写 ・主として東洋画古典作品の現状模写を行う。原本の表現・技法・材料について研究する。 各自の調査に基づき基底材の選定、使用された材料を特定あるいは推定する。 1、模本準備、方針の設定【絹及び紙の選択、トリミング】 2、薄美濃紙にドーサ引き、仮張り 3、上げ写し 4、絹の下地処理、張り込み 5、色見本作成、原本調査 6、絹上げ、彩色 7、裏打ち 8、講評会【作品プレゼンテーション(学生)、講評(教員)】 課題2 日本画制作「各自のテーマによる制作」(150号程度) 9、素描、スケッチ 10、制作計画【小下図、大下図 等】 11、制作準備【パネル、基底材、描画材 等】 12、日本画制作【技法・材料研究、表現性についての研究】 13、日本画制作【技法・材料研究、表現性についての研究】 14、日本画制作【技法・材料研究、表現性についての研究】 15、講評会【作品プレゼンテーション(学生)、講評(教員)】
評価方法	通常実習中の取り組み姿勢、理解度を実習の各段階ごとにチェックし評価の基準とする。提出作品により造形力、表現技術の到達度を点数化し評価する。実習を通して観察力と基礎的な表現技術を習得し、作品提出する事を単位取得(可)の条件とする。さらに作品に感性の豊かさや表現の的確さが認められるものを(良)、優れたものを(優)、特に優れたものを(秀)とする。
教科書等	模本は原則として美術館等で熟覧調査可能な作品。その他資料は必要に応じて提示する。
担当者プロフィール	藁谷 実・日本美術院同人 前田 力・日本美術院特待
備考	

科目名	油絵研究A I
単位数	8.0
担当者	教授 大矢英雄 教授 森永昌司 (他: 准教授 志水兎王 講師 釣谷幸輝 講師 佐藤尉隆)
履修時期	1年 通年
履修対象	1年次
概要	ヨーロッパの伝統的な絵画技法の実践と、素材の研究を通して西洋画の絵画構造を探り、油彩による表現に於ける、より専門的な美的、精神的な背景を学ぶ。それによって、新しい自己表現の可能性を探る。 授業形態: 実習
科目の到達目標	・絵画組成の理解と自己の絵画技法への応用 ・美意識の研究
受講要件	主たる指導教員と相談の上、研究計画書を作成して提出すること。
事前・事後学修の内容	独自性のある研究計画を策定すること。
講義内容	この科目は学生各自の研究計画にそって、油絵専攻の策定する指導概要を鑑み、主指導教員を中心に油絵専攻担当教員がより専門的な実技指導をおこなう。 前期期間中に、中間講評を2回と作品(概ね100号1点)を提出し、後期期間中に、中間講評を2回と作品(概ね100号1点)を提出のこと。 また、期間中に集中講義としてフレスコ実習を行う。 自らの創作研究に沿った実技制作 1 各自の研究計画の再確認、教員とのディスカッション 2 実技制作準備等(取材、材料準備など) 3 実技制作(エスキース、下図制作。スケッチ、写真等から構想する) 4 "(下地作り、下塗り他) 5 "(未知の効果を確認するためのテストピースの制作、再取材など) 6 "(本画面への下描き) 7 "(描画: バランスを考える) 8 "(描画: 色と全体の調子の確認) 9 "(中間講評: 5割方の進行状況が望ましい。教員とのディスカッション) 10 "(講評を含まえ再取材、部分変更や色の重ね具合など再確認) 11 "(描き込み) 12 "(全体整理: 実作の撮影などを行い、客観的に整理) 13 "(仕上げ) 14 総合講評・まとめ(講評会) 15 総合講評・まとめ(作品展示)
評価方法	提出作品等により研究成果を総合的に評価する。 判定の基準として研究計画書による取り組みや提出作品の内容が満たされていれば「可」とし、提出作品の内容や計画書による達成度が予定通り進められていると認められた場合「良」とし、研究姿勢も含めた総合的観点において高い研究結果の作品や成果が認められたものを「優」とする。その中でさらに独自性を表し、追従がない程の作品や成果をあげたものについて「秀」と認定する。
教科書等	適宜、指示する。
担当者プロフィール	
備考	

科目名	油絵研究AⅡ
単位数	8.0
担当者	教授 大矢英雄 教授 森永昌司 他: 准教授 志水児王 講師 釣谷幸輝 講師 佐藤尉隆
履修時期	通年
履修対象	2年次
概要	西洋絵画の伝統をふまえながら絵画表現の可能性を探求する。すなわち、油彩画の伝統的な表現を学ぶばかりでなく、現代に於ける絵画表現の文化的・美的な構造を検証しつつ、より専門的な創作実践を行っていく。
科目の到達目標	西洋絵画の伝統的技法を掘り下げるとともに、現代に於ける美術について新しい方向性と可能性を探ることを目標とする。
受講要件	主たる指導教員と相談上、研究計の画書を作成して提出すること。 修了作品に結びつく創作研究であること。
事前・事後学修の内容	独自性のある研究計画を策定すること。 指導教員のもとに、各自より主体的な創作研究に取り組むこと。
講義内容	<p>この科目は学生各自の研究計画に沿って、専門的な実技指導を行う。 通年期間中に中間講評を行い、修了作品(概ね150号1点)を提出のこと。 自ら創作研究に沿った修了制作を行うこと。 この科目は学生各自の研究計画にそって、油絵専攻の策定する指導概要を鑑み、主指導教員を中心に油絵専攻担当教員がより専門的な実技指導をおこなう。 前期期間中に、中間講評を2回と作品(概ね100号1点)を提出し、後期期間中に、中間講評を2回と作品(概ね100号1点)を提出のこと。 また、期間中に集中講義としてフレスコ実習を行う。 自らの創作研究に沿った実技制作</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 各自の研究計画の再確認、教員とのディスカッション 2 修了制作準備等(取材、材料準備など) 3 修了制作(エスキース、下図制作。スケッチ、写真等から構想する) 4 "(下地作り、下塗り他) 5 "(未知の効果を確認するためのテストピースの制作、再取材など) 6 "(本画面への下描き) 7 "(描画:バランスを考える) 8 "(描画:色と全体の調子の確認) 9 "(中間講評:5割方の進行状況が望ましい。教員とのディスカッション) 10 "(講評を含まえ再取材、部分変更や色の重ね具合など再確認) 11 "(描き込み) 12 "(全体整理:実作の撮影などを行い、客観的に整理) 13 "(仕上げ) 14 総合講評・まとめ(講評会・作品提出・口頭発表) 15 総合講評・まとめ(修了作品展示)
評価方法	報告書提出に合わせて、修了作品について口頭発表を行い、研究成果を評価する。評価基準は以下の通りである。 提出作品等により研究成果を総合的に評価する。判定基準として研究計画書による取り組みや提出作品の内容が満たされていれば「可」とし、提出作品の内容や計画書による達成度が予定通り進められていると認められた場合「良」とする。研究姿勢も含めた総合的観点において高い研究結果、作品や成果が認められた場合を「優」とする。その中でさらに独自性を表し、追従のない程に作品や成果のみられたものについては「秀」を認定する。
教科書等	適宜、指示する。
担当者プロフィール	
備考	

科目名	油絵研究B I
単位数	8.0
担当者	講師 佐藤尉隆 (他:教授 大矢英雄 教授 森永昌司 准教授 志水児王 講師 釣谷幸輝)
履修時期	通年
履修対象	1年次
概要	現代美術としての絵画研究をおこなう。履修学生の研究計画を検討しながら、それぞれの創作の方向性を尊重し、担当教員は技術・理論両面における示唆を与えながら指導をおこなう。洋画の古典技法のひとつであるフレスコ実習をおこなう。また日本の近代における洋画の受容の歴史も取り扱う。
科目の到達目標	現代的な絵画表現に足る新規性のある制作を求める。絵画を出発点として発想される限り、多様な表現は供される。仮に平面作品という枠から逸脱した表現であっても積極的に評価する。制作は美術史や技法研究もおこなうことで補強されるべきで、思考と実際の制作の一致を目標とする。
受講要件	本学油絵専攻の学部生に相当する以上の、専門知識及び技能を修得していること。
事前・事後学修の内容	教職員、周囲の学生、そしてモデルなど、この授業に関わる全ての人間に対し最低限の配慮と心遣いを忘れず、相互の制作環境を尊重し合うこと。アトリエ内での静粛さを保ちながら、積極的な態度で臨むことを求める。
講義内容	この科目は学生の研究計画に沿って専門的な実技指導を行う。洋画の古典技法のひとつであるフレスコ実習を集中講義としておこなう。 <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス(研究実技制作準備等) 2. 研究計画書に基づく個人面談 3. 学生プレゼンテーション 4. 実技課題制作・リサーチなど 5. 実技課題制作・テストピースの制作など 6. 実技課題制作・中間講評に向けての調整 7. フレスコ実習 8. フレスコ実習 9. 実技課題制作・中間講評 10. 実技課題制作・中間講評内容を作品に反映 11. 実技課題制作・再リサーチの検討 12. 実技課題制作・造形面の再検討 13. 実技課題制作・他者の批評等を受け、客観的に制作内容を整理。 14. 実技課題制作・仕上げ・プレゼンテーション準備 15. プレゼンテーション・講評会・作品記録
評価方法	評価方法: 提出作品の内容と、プレゼンテーション内容も参考に加えて総合的に評価する。 評価基準: 作品を提出した者について平常の研究態度も参考に、提出作品の内容が満たされていれば「可」とし、提出作品の内容について、計画書により予定通り達成されていると認められた場合「良」。総合的観点において一定の成果や作品が優秀と認められたものを「優」とし、その中でさらに独自性を発揮し、追従がない程の作品や研究成果をあげたものについて「秀」と認定する。
教科書等	特になし。
担当者プロフィール	
備考	

科目名	油絵研究BⅡ
単位数	8.0
担当者	講師 佐藤尉隆 (他:教授 大矢英雄 教授 森永昌司 准教授 志水児王 講師 釣谷幸輝)
履修時期	通年
履修対象	2年次
概要	現代美術としての絵画研究を扱う。履修学生の研究計画を検討しながら、それぞれの創作の方向性を尊重し、担当教員は技術～理論両面で示唆を与えながら指導をおこない、集大成としての修了制作を行なう。
科目の到達目標	西洋絵画の伝統的技法を修め、美術の文脈への理解を基礎におきながら、主に集大成としての修了制作において、新規性のあるビジョンの提案、あるいは深化が顕著に認められる研究内容を到達目標とする。絵画を出発点として発想される限り、多様な表現の発揮は認められ、仮に平面から逸脱した表現であっても積極的に評価する。
受講要件	1年次に「油絵研究BⅠ」を履修済みであること。
事前・事後学修の内容	主たる指導教員と相談の上、修了作品に結びつく創作研究であることを念頭に、研究計画書を作成し提出すること。 教職員、周囲の学生、そしてモデルなど、この授業に関わる全ての人間に対し最低限の配慮と心遣いを忘れず、相互の制作環境を尊重し合うこと。アトリエ内での静粛さを保ちながら、積極的な態度で臨むことを求める。
講義内容	この科目は学生各自の研究計画に沿って専門的な実技指導を行う。 通年期間中に幾度かの中間講評を行い、修了作品(概ね150号の絵画作品1点に相当)の提出を課す。 1. ガイダンス(修了制作準備等) 2. 制作計画書に基づく個人面談 3. 学生プレゼンテーション 4. 実技修了制作・リサーチなど 5. 実技修了制作・テストピースの制作など 6. 実技修了制作・中間講評に向けての調整 7. プレゼンテーション・中間講評 8. 実技修了制作・中間講評内容を作品に反映 9. 実技修了制作・再リサーチの検討 10. 実技修了制作・造形面の再検討 11. 実技修了制作・他者の批評等を受け、客観的に制作内容を整理。 12. 実技修了制作・ 13. 実技修了制作・展示方法の検討 14. 実技修了制作・仕上げ・プレゼンテーション準備 15. プレゼンテーション・講評会・作品記録
評価方法	評価方法: 報告書の提出に合わせ、修了作品の提出とプレゼンテーションを課し、研究成果を総合的に評価する。 評価基準: 作品を提出した者について平常の研究態度も参考に、提出作品の内容が満たされていれば「可」とし、提出作品の内容について、計画書により予定通り達成されていると認められた場合「良」。総合的観点において一定の成果や作品が優秀と認められたものを「優」とし、その中でさらに独自性を発揮し、追従がない程の作品や研究成果をあげたものについて「秀」と認定する。
教科書等	特になし。
担当者プロフィール	
備考	

科目名	油絵研究C I
単位数	8.0
担当者	准教授 志水兎王、講師 釣谷 幸輝(教授 大矢英雄、教授 森永昌司、講師 佐藤尉隆 その他)
履修時期	通年
履修対象	大学院前期修士課程1年次
概要	<p>絵画表現に培った基礎的な造形力を基に、表現媒体の幅広い研究を行う。本授業の目標は、理論とともに版画及び造形、または、それらを横断する表現で各自が設定したテーマ研究を行う。</p> <p>(版画) 版画的領域全般の制作実習を行う。版画全般、それぞれの技法について概説し、実技制作を通して高度な版画技法を体験しながら、版表現の概念と造形の解釈の考察を進める。</p> <p>(造形) 先鋭的な美術表現を目指し、平面からインスタレーションまでの様式で、自身のテーマを持ちながら作品制作し、表現の展開を試みる。</p>
科目の到達目標	<p>学外での積極的な発表を行うことが望ましい。</p> <p>(版画) 絵画表現のより柔軟で多角的な観点からの展開として、版による表現を通して独自の意味と現代性を探求を進めて行く。</p> <p>(造形) 美術表現を多角的に研究。素材研究と同時に、現代における表現の可能性を広げる制作研究を進める。</p>
受講要件	<p>(版画) 学部において版画制作演習、版画制作実習Ⅰ、版画制作実習Ⅱ、版画による卒業制作等の経験など版画全般について基本的な技法と表現の理解と体験があることが望ましい。</p> <p>(造形) 現代の表現に興味を持ち、主体的な研究計画と制作を継続的に進め作品を展開していけること。プレゼンテーション、ディスカッションに積極的に臨めること。</p>
事前・事後学修の内容	<p>(版画) 主体的な取り組みの中で版表現の概念と技術の深まりを探求する。</p> <p>(造形) 主体的で積極的な取り組み姿勢を継続する。</p>
講義内容	<p>(版画・造形) 自らの創作研究に沿った実技制作</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 各自の研究計画の再確認 2 研究実技制作の準備 3 実技課題制作 4 実技課題制作 5 実技課題制作 6 中間講評 7 実技課題制作 8 実技課題制作 9 実技課題制作 10 展覧会等における発表のための準備 11 展覧会等における発表のための準備 12 展覧会等における発表のための準備 13 展覧会等における発表 14 展覧会等における発表 15 講評
評価方法	<p>提出作品、研究発表等により研究成果を総合的に評価する。</p> <p>判定の基準として研究計画書による取り組みや提出作品の内容が満たされていれば「可」とし、提出作品の内容や計画書による達成度が予定通り進められていると認められた場合「良」とし、研究姿勢も含めた総合的観点において高い研究結果の作品や成果が認められたものを「優」とする。さらにその中で独自性を表し、追随がない程の作品や成果をあげたものについて「秀」と認定する。</p>
教科書等	随時提示する。
担当者プロフィール	志水兎王(平面及びインスタレーションなど) 釣谷 幸輝(メゾチント・木口木版など)
備考	

科目名	油絵研究C II
単位数	8.0
担当者	准教授 志水兎王、講師 釣谷 幸輝(教授 大矢英雄、教授 森永昌司、講師 佐藤尉隆 その他)
履修時期	通年
履修対象	大学院前期修士課程2年次
概要	(版画) 研究計画書に基づいて選択された版画領域における制作実習を行う。研究・制作を通してより高度な版画技法を積み重ねながら修了制作に展開して行く。独自の版表現と造形解釈の探求を進める。 (造形) 現代絵画からインスタレーション・ミクストメディアなど、現代美術の研究を軸とした表現の展開や研究を継続し修了制作を完成させる。また学外での積極的な発表を行う事が望ましい。
科目の到達目標	(版画) 自らの創作研究に沿って、より柔軟高度な制作研究を進めながら、必然的な版表現と造形解釈の探求を進める。 (造形) 現代を見据えた思考や表現を積極的に研究し独自で新しい手法や素材の関係性を多角的に研究・制作する。
受講要件	主たる指導教員と相談の上、研究計画書を作成して提出すること。修了作品に結びつく創作研究であること。 (版画)油絵研究 I C における経験など版画全般についての技法と表現の理解と体験があることが望ましい。 (造形)油絵研究 I C における研究を通じて、独自のテーマを持ち、複数のメディアを通じて体現する技能と体験があること。
事前・事後学修の内容	独自性のある研究計画を策定する。指導教員のもとに、各自より主体的な創作研究に取り組む。 (版画)主体的な取り組みの中で、版表現の概念と技術の深まりを探求する。 (造形)主体的かつ柔軟な取り組みの中で、現代における造形の表現を探求する。
講義内容	この科目は学生各自の研究計画にそって、専門的な実技指導を行う。通年期間中に、中間講評を行い、修了作品(概ね150号相当1点)を提出のこと。自ら創作研究に沿った修了制作を行うこと。 1 各自の研究計画の再確認 2 研究実技制作の準備 3 実技課題制作 4 実技課題制作 5 実技課題制作 6 中間講評 7 実技課題制作 8 実技課題制作 9 実技課題制作 10 修了作品の制作 11 修了作品の制作 12 修了作品の制作 13 修了作品の制作 14 講評 15 まとめ・修了作品提出・口頭発表
評価方法	報告書提出に合わせて、修了作品について口頭発表を行い、研究成果を評価する。評価基準は以下の通りである。 提出作品等により研究成果を総合的に評価する。判定基準として研究計画書による取り組みや提出作品の内容が満たされていれば「可」とし、提出作品の内容や計画書による達成度が予定通り進められていると認められた場合「良」とする。研究姿勢も含めた総合的観点において高い研究結果の作品や成果が認められた場合を「優」とします。その中でさらに独自性を表し、追従のない程の作品や成果のみられたものについては「秀」を認定する。
教科書等	随時提示する。
担当者プロフィール	志水兎王(平面及びインスタレーションなど) 釣谷 幸輝(メゾチント・木口木版など)
備考	

科目名	日本画材料技法演習
単位数	2.0
担当者	芸術学部 教授 藁谷 実、非常勤講師 植田一穂
履修時期	後期
履修対象	博士前期課程絵画研究 日本画1年
概要	<p>授業形態: 演習 課題: 基底材研究、絵の具・墨研究、スケッチ技法材料研究、日本画制作 ・日本画は、日本の歴史とともに様式を変えながらも材料技法は大きく変わること無く今日まで受け継がれている。この授業では技法材料面から絵画表現を考察する。</p>
科目の到達目標	・素描、制作準備、日本画制作導入部から作品完成に至る各段階で、日本画についての知識、思考方法、技術のうち、特に材料と技術について修得する。
受講要件	博士前期課程絵画研究日本画研究A及びBに所属している学生であること。
事前・事後学修の内容	・日本画に限らず、優れた芸術作品に数多く触れる。 ・スケッチ、素描など作品制作の基礎となる研究、学修を行う。
講義内容	<p>この授業では、日本画制作で使用する基底材(紙、絹、板、壁画)、岩絵の具、有機質の絵の具、膠、墨と硯などについて技法材料の研究を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、講師作品のスライドによる作品解説【技法材料研究】 2、講師とともにスケッチ取材【スケッチ取材における技法材料の研究】 3、スケッチ講評会【講評(教員)、作品プレゼンテーション、客観的な自己作品評価の研究】 日本画制作による総合的な研究。 4、素描、スケッチ 5、素描、スケッチ 6、制作計画【下図、基底材選定等】 7、制作計画【下図、基底材選定等】 8、制作準備【パネル、基底材、描画材等】 9、制作準備【パネル、基底材、描画材等】 10、日本画制作【技法・材料研究、造形性、表現力についての研究】 11、日本画制作【技法・材料研究、造形性、表現力についての研究】 12、日本画制作【技法・材料研究、造形性、表現力についての研究】 13、日本画制作【技法・材料研究、造形性、表現力についての研究】 14、日本画制作【技法・材料研究、造形性、表現力についての研究】 15、講評会【講評(教員)、作品プレゼンテーション、客観的な自己作品評価の研究】
評価方法	実習への取り組み姿勢、理解度を実習進度の段階ごとにチェックし評価の基準とする。提出作品により観察力、造形力、表現技術の到達度を点数化し評価する。各課題における作品提出を単位取得(可)の条件とする。さらに作品に感性の豊かさや表現の的確さが認められるものを(良)、優れたものを(優)、特に優れたものを(秀)とする。
教科書等	参考資料を必要に応じて提示する。
担当者プロフィール	藁谷 実・日本美術院同人 植田一穂・東京芸術大学教授 創画会会員
備考	

科目名	油絵材料技法演習
単位数	2.0
担当者	非常勤講師 佐藤一郎
履修時期	前期
履修対象	1年次
概要	絵画の基本についての講義である。「絵画の心得」から、「見る」と「描く」から導き出される「絵画の重層構造」、さらに「明暗法」、「遠近法」、「顔料、媒剤(メディウム)、テンペラ絵具、油絵具」などを、実習をも加える。 【授業形態: 演習】
科目の到達目標	絵画制作を通して、「見る眼の寸法を拵える」修練の重要性を認識し、「物質としての絵画」としての絵画材料学、絵画技術学の基本を修得する。
受講要件	造形芸術専攻油絵研究室所属
事前・事後学修の内容	前期の絵画制作について、日記形式で記す。その場合、支持体、地塗り、絵具層に使用した顔料と媒剤を記録する。その際、疑問に思ったこと、わからなかったこと、さらに絵画技術の専門用語について、自分なりに文章化することを要望する。さらに「みずからの眼で対象物を見て描く自己表現」について小論を記す。
講義内容	①「絵画の心得」: 歴代名畫記の「畫の六法」の「氣韻生動、骨法用筆、応物象形、随類賦彩、經營位置、伝模移写」を、西洋画と関連づけて述べる。 実技: 素描A-1(植物を題材に、水彩紙に鉛筆、テンペラ、油絵具を使用) ②「見ること」「描くこと」: アリストテレスの「見ることの構造」と、ヤン・ファン・エイクの「描くことの構造」の対応関係を述べる。 実技: 素描A-2(下素描、陰影描写、地透層、白色浮出、彩色の過程を順守) ③遠近法: 比例(プロポーション)、構図(コンポジション)としての1点、2点透視図法について述べる。みずか視高と視距離を設定し、作図する。 実技: 素描B-1(鉛筆、定規で、2点透視図法を用い、輪郭線素描+陰影) ④明暗法: ニュートンの光学と、顔料、媒剤の屈折率: 光の吸収と反射によって、さまざまな色が見えるとは? 油絵具のID番号、透明性・被覆性を述べる。 実技: 素描C-1(透層+掠層による諧調(グラデーション)見本を作成) ⑤「黒田清輝の素描と絵画」+「藤田嗣治の絵画技術」: 日本絵画の行方を探る。 レポート: みずからの絵画を今後どのように制作するのか。 ※全30コマ
評価方法	受講要件の「制作記録」、「みずからの表現とは?」、本講義での「素描A,B,C」「レポート」を提出。提出されたものと、個人面接を加え、総合的に評価する。
教科書等	適宜、講義資料を配布する。参考図書となる佐藤一郎の著書、訳書を列挙する。 ①「デルナー: 絵画技術体系」佐藤訳(美術出版社、1980)②「ヴェールテ: 絵画技術全書」佐藤他訳(美術出版社、1993)③「テンペラ画の実技」佐藤監訳(三好企画、2005)④「絵画制作入門」佐藤著(東京藝術大学出版会、2014)
担当者プロフィール	1970年東京藝術大学美術学部絵画科油画専攻首席卒業。1973年「安井賞候補展」出品(池袋西武百貨店)、西ドイツ政府給費留学生として、ハンブルグ美術大学ルドルフ・ハウスナー教室在籍(-1976)。1981年東京藝術大学油画技法材料第1研究室担当(-2014)。2014年金沢美術工芸大学大学院教授、東京藝術大学名誉教授、嵯峨芸術大学客員教授、文化財保護芸術振興財団評議員。
備考	教材費として2000円程度が必要になる。

科目名	彫刻研究A I
単位数	8.0
担当者	芸術学研究科 教授 前川義春、講師 田中圭介
履修時期	通年
履修対象	造形芸術専攻彫刻研究1年次
概要	授業形態:実習 学部で培ってきた彫刻的造形力、概念の基礎をより深く追求し、現代の芸術や彫刻の動向を見据え、さらに石彫、木彫、複合素材を中心とした実材彫刻の多様な表現方法を学び、彫刻概念の幅を広げるとともに、その中で個性的な彫刻制作を研究する。講評時に、学生によるプレゼンテーションを行う。
科目の到達目標	学部での彫刻研究、制作の基礎をさらに確かなものにするとともに、実材彫刻の自らのプランを積極的に押し進め、独自の個性ある彫刻を目指す。
受講要件	造形芸術専攻彫刻研究A研究室に所属している学生であること。
事前・事後学修の内容	博士前期課程は2年間と短い為、特に入学時に気を緩めること無く、研究・制作を進めるよう心掛けること。
講義内容	[前期] ・ 導入、概要説明(彫刻研究AI,BIクラス合同) ・ 大学院入学試験時に提出した研究計画書をもとに、研究・制作の進め方について担当教員の個別指導を受け、内容について精査し、方針を決定する。 ・ 各自の研究計画に従い研究・制作を進め、適時担当教員に進捗状況を報告するとともに、個別指導を受ける。 ・ 1、2時限の授業時間に、選択制でモデルをつかっている等身人体等の塑造制作をおこなうことができる(432彫刻アトリエ)。 ・ 前期終了時には作品、ポートフォリオ、資料をまとめて結果報告をすると共に、AI,BIクラス合同講評会をおこなう。その中で進捗状況の確認とともに前期の反省をおこない、後期の研究・制作内容について精査する。 [後期] ・ 各自の研究計画に従い研究、制作を進め、適時担当教員に進捗状況を報告するとともに、個別指導を受ける。 ・ 1、2時限の授業時間に、選択制でモデルを使っている等身人体等の塑造制作をおこなうことができる(432彫刻アトリエ)。 ・ 後期終了時には作品、ポートフォリオ、資料をまとめて結果報告をすると共に、AI,BIクラス合同講評会をおこなう。その中で1年の反省をおこない、彫刻研究AⅡの研究、制作内容について精査する。
評価方法	通常授業への取り組み姿勢、研究の進捗状態を実習の段階ごとにチェックし評価の前提とし、提出作品により造形力、表現力、独自性を点数化し評価する。年間を通して実材(木彫、石彫、複合素材)や塑造による彫刻研究を進め、造形力、表現力を強化し、作品提出することを単位取得「可」の条件とする。さらに研究に独自性が認められるものを「良」、加えて芸術性の高いものを「優」、より優れたものを「秀」とする。
教科書等	個別指導の中で必要に応じ担当教員が提示する。
担当者プロフィール	前川義春:石を中心とした素材で彫刻制作を行っている。現代の彫刻やランドスケープ、日本の伝統的技法までを研究し、空間や環境に根ざした彫刻表現の可能性の追求と展開をおこなっている。 田中圭介:主に木を素材に彫刻を制作。歴史的、風土的、個人的な、木と人間の関係を軸として、認識と実在をテーマに彫刻表現の可能性と人間の普遍性を追求している。
備考	

科目名	彫刻研究AⅡ
単位数	8.0
担当者	芸術学研究科 教授 前川義春、講師 田中圭介
履修時期	通年
履修対象	造形芸術専攻彫刻研究2年
概要	授業形態:実習 彫刻研究AⅠで学んだ彫刻的要素をもとに、さらに展開と探求を進め、室内や野外の空間における彫刻の効果的な在り方を探り、個性ある彫刻表現の確立を目指す。講評時に、学生によるプレゼンテーションを行う。
科目の到達目標	作品発表の方法に至るまでを考慮に入れた研究・制作をおこない、彫刻家としての姿勢の確立を目指す。
受講要件	造形総合研究彫刻研究AⅠを履修し終えていること。
事前・事後学修の内容	修了制作を控え、さらに幅広く、深い研究・制作に挑まねばなりません。十分な態勢で臨めるよう日常生活にも配慮をすること。
講義内容	[前期] ・ 導入、概要説明(彫刻研究AⅡ、BⅡクラス合同) ・ 研究・制作の進め方について、彫刻研究AⅠでの研究・制作をもとに担当教員の個別指導を受け、内容について精査し方針を再確認する。 ・ 各自の研究計画に従い研究・制作を進め、適時担当教員に進捗状況を報告するとともに、個別指導を受ける。 ・ 1、2時限の授業時間に、選択制でモデルをつかっている等身人体等の塑像の制作をおこなうことが出来る(432彫刻アトリエ)。 ・ 前期終了時には作品、ポートフォリオ、資料をまとめ結果報告をすると共に、彫刻研究AⅡ、BⅡクラス合同講評会をおこなう。 その中で進捗状況の確認とともに前期の反省をおこない、後期の研究・制作内容について精査する。 [後期] ・ 各自の研究計画に従い研究、制作を進め、適時担当教員に進捗状況を報告するとともに、個別指導を受ける。 ・ 1、2時限の授業時間に、選択制でモデルをつかっている等身人体等の塑像の制作をおこなうことが出来る(432彫刻アトリエ)。 ・ 後期終了時には作品、ポートフォリオ、資料をまとめ2年間を通した結果報告をすると共に、彫刻研究AⅡ、BⅡクラス合同講評会をおこなう。その中で修了作品展の展示作品・内容を決定する。
評価方法	通常授業への取り組み姿勢、研究の進捗状態を実習の段階ごとにチェックし評価の前提とし、提出作品により造形力、表現力、独自性を点数化し評価する。 年間を通して実材(木彫、石彫、テラコッタ、複合素材)と塑造による彫刻研究を進め、造形力、表現力を強化し、作品提出することを単位取得「可」の条件とする。さらに作品に芸術性、独自性が認められるものを「良」、加えて完成度の優れたものを「優」、より優れたものを「秀」とする。
教科書等	個別指導の中で必要に応じ担当教員が提示する。
担当者プロフィール	前川義春:石を中心とした素材で彫刻制作を行っている。現代の彫刻やランドスケープ、日本の伝統的技法までを研究し、空間や環境に根ざした彫刻表現の可能性の追求と展開をおこなっている。 田中圭介:主に木を素材に彫刻を制作。歴史的、風土的、個人的な、木と人間の関係を軸として、認識と実在をテーマに彫刻表現の可能性と人間の普遍性を追求している。
備考	

科目名	彫刻研究B I
単位数	8.0
担当者	芸術学研究科 教授 伊東敏光、教授 チャールズ・ウォーゼン
履修時期	通年
履修対象	造形芸術専攻彫刻研究1年次
概要	授業形態:実習 学部で培ってきた塑造を核とした彫刻的造形力、精神性の基礎をより深く追求し、さらに金属、テラコッタ、ミックストメディア等、多様な表現方法を学び、彫刻概念の幅を広げるとともに、制作を通して個性的な彫刻表現の確立を目指す。講評時に、学生によるプレゼンテーションを行う。
科目の到達目標	作品制作にあたり、構想、試作、実制作のプロセスを段階的に経験、実践していくことで、彫刻作家としての専門的造形能力を身につける。
受講要件	造形芸術専攻彫刻研究B研究室に所属している学生であること。
事前・事後学修の内容	自主性をもってあらゆる面で自ら学び研究し、また積極的に制作に励むこと。
講義内容	[前期] ・ 導入、概要説明(彫刻研究A I ,B I クラス合同) ・ 大学院入学試験時に提出した研究計画書をもとに、研究・制作の進め方について担当教員の個別指導を受け、内容について精査し方針を決定する。 ・ 各自の研究計画に従い研究・制作を進め、適時担当教員に進捗状況を報告するとともに個別指導を受ける。 ・ 1、2時限の授業時間に、選択制でモデルを使つての等身人体等の塑像の制作をおこなうことができる(432彫刻アトリエ)。 ・ 前期終了時には、作品、ポートフォリオ、資料をまとめて成果報告をするとともに、A I ,B I クラス合同講評会をおこなう。その中で研究内容を精査し、後期の研究・制作について具体的方針を定める。 [後期] ・ 各自の研究計画に従い研究、制作を進め、適時担当教員に進捗状況を報告するとともに、個別指導を受ける。 ・ 1、2時限の授業時間に、選択制でモデルを使つての等身人体等の塑像の制作をおこなうことができる(432彫刻アトリエ)。 ・ 後期終了時にはポートフォリオ、資料をまとめて成果報告をするとともに、A I ,B I クラス合同講評会をおこなう。その中で1年間の研究内容を精査し、B II の研究・制作について研究の方向性と目標を具体化する。
評価方法	通常授業への取り組み姿勢、研究の進捗状態を実習の段階ごとにチェックし評価の前提とし、提出作品により造形力、表現力、独創性を点数化し評価する。 年間を通して実材(金属、テラコッタ、ミックストメディア等)と塑造による彫刻研究を進め、造形力、表現力を強化して作品提出することを単位取得「可」の条件とする。さらに研究に独創性が認められるものを「良」、加えて芸術性の高いものを「優」、より優れたものを「秀」とする。
教科書等	個別指導の中で必要に応じ、映像を含めた古今東西の資料を提供する。
担当者プロフィール	伊東敏光:専門領域は金属を中心としたミックストメディアの彫刻である。素材は表現対象によって金属、石、木、プラスチック等から選択し組み合わせる場合が多いが、一貫して自然の形態から抽出したフォルム(形)を研究し、その造形化と彫刻表現の可能性を追求している。 チャールズ・ウォーゼン:アメリカ、ドイツ、日本でのアーティスト活動と生活経験を基に、国際的視野から現代彫刻を研究している。作品制作では「合成素材とてづくり」を基本に、不可解で予測出来ない形態を、プラスチックやシリコンを素材につくり出す。
備考	

科目名	彫刻研究BⅡ
単位数	8.0
担当者	芸術学研究科 教授 伊東敏光、教授 チャールズ・ウォーゼン
履修時期	通年
履修対象	造形芸術専攻彫刻研究2年次
概要	授業形態:実習 彫刻研究BⅠで学んだ彫刻的要素をもとに、さらに展開と研究を進め、室内や野外の空間に於ける彫刻の効果的な在り方をさぐり、学生個々の特性を生かした彫刻表現の確立を目指す。講評時に、学生によるプレゼンテーションを行う。
科目の到達目標	作品制作から作品発表の方法までを考慮にいれた研究・制作をおこない、制作と展示を通して独創的表現ができるようになる。
受講要件	造形総合研究彫刻研究BⅠを履修し終えていること。
事前・事後学修の内容	自主性をもって積極的にあらゆる面で自ら学び研究し、また制作に励むこと。
講義内容	<p>[前期]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 導入、概要説明(彫刻研究AⅡ,BⅡクラス合同) ・ 大学院入学試験時に提出した研究計画書をもとに、研究・制作の進め方について、担当教員の個別指導を受け、内容について精査し、方針を再確認する。 ・ 各自の研究計画に従い研究・制作を進め、適時担当教員に進捗状況を報告するとともに、個別指導を受ける。 ・ 1、2時限の授業時間に、選択制でモデルをつかっの等身人体等の塑像の制作をおこなうことができる(432彫刻アトリエ)。 ・ 前期終了時には、作品、ポートフォリオ、資料をまとめて成果報告をするとともに、AⅠ,BⅠクラス合同講評会をおこなう。その中で研究内容を精査し、後期の研究・制作について具体的方針を定める。 <p>[後期]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各自の研究計画に従い研究、作品制作を進め、適時担当教員に進捗状況を報告するとともに、個別指導を受ける。 ・ 1、2時限の授業時間に、選択制でモデルをつかっの等身人体等の塑像の制作をおこなうことができる(432彫刻アトリエ)。 ・ 後期終了時には作品、ポートフォリオ、資料をまとめ、2年間を通した成果報告をするとともに、AⅠ,BⅠクラス合同講評会をおこなう。その中で修了作品展に展示内容を決定する。
評価方法	通常授業への取り組み姿勢、研究の進捗状態を実習の段階ごとにチェックし評価の前提とし、提出作品により造形力、表現力、独自性を点数化し評価する。 年間を通して実材(金属、テラコッタ、ミックスメディア等)と塑造による彫刻研究を進め、造形力、表現力を強化し、作品提出することを単位取得「可」の条件とする。さらに研究に独創性が認められるものを「良」、加えて芸術性の高いものを「優」、より優れたものを「秀」とする。
教科書等	個別指導の中で必要に応じ、古今東西の資料を提供する。
担当者プロフィール	伊東敏光:専門領域は金属を中心としたミックスメディアの彫刻である。素材は表現対象によって金属、石、木、プラスチック等から選択し組み合わせる場合が多いが、一貫して自然の形態から抽出したフォルム(形)を研究し、その造形化と彫刻表現の可能性を追求している。 チャールズ・ウォーゼン:アメリカ、ドイツ、日本でのアーティスト活動と生活経験を基に、国際的視野から現代彫刻を研究している。作品制作では「合成素材とてづくり」を基本に、不可解で予測出来ない形態を、プラスチックやシリコンを素材につくり出す。
備考	

科目名	環境造形演習
単位数	2.0
担当者	教授 チャールズ・ウォーゼン、非常勤講師 康夏奈、助教 七瀬綾乃
履修時期	後期
履修対象	造形芸術専攻彫刻研究1年次
概要	【授業形態：演習】 サイトスペシフィックアートについて幾つかの事例を学ぶと共に、特定の場所に存在するための作品を設計し制作する。場所が先か作品が先か、作品と場所の関係性をどのように自己の中で設定するのか、その意味や価値を、環境や社会的な視点から考察する。内的作用が必要とされる自己の作品制作から一歩踏み出し、場所からインスピレーションを受け、環境適応能力を養う。
科目の到達目標	自然と人間を対象とした環境をテーマとし、空間とモノとの「関係と構造」を考え、表現としての内的な領域を拡大する。
受講要件	造形芸術専攻彫刻研究A、B研究室に所属していること。
事前・事後学修の内容	到達目標が達成できるよう思考を深め、作品制作を進めること。 定期的に作品進捗状況の提示を写真、ドローイングで行う(メール等で)。
講義内容	(指導教員：非常勤講師 康夏奈、教授 前川義春、教授 伊東敏光、教授 チャールズ・ウォーゼン、講師 田中圭介、助教 七瀬綾乃) 【前半】 第1回 導入、課題説明(室内と野外空間の提示) 第2回 作品プランとマケットの作成 第3回 プランによる制作についてのプレゼンテーション・作品制作(後半授業までの約5ヶ月間で、作品制作を進める) 【後半】 第4回 作品設置(各自が選んだ室内外空間に、作品を設置する)、各自のプレゼンテーション、鑑賞 第5回 作品移動、設置(指定された室内外空間に、作品を移動設置する)、各自のプレゼンテーション、鑑賞 第6回 講評(作品と場との相互関係に重点を置き、講評、指導をおこなう)
評価方法	授業への取り組み姿勢と課題に対する理解度を評価の前提とし、展示作品と「場」とが生み出す空間的造形美を点数化し評価する。 授業を通して「場と作品」との関係性について学び、作品提出(設置)することを単位取得「可」の条件とする。そこに作品と空間との相乗効果、芸術性が認められるものを「良」、優れたものを「優」、より優れたものを「秀」とする。
教科書等	必要に応じ、担当教員が用意した資料を提示するか、担当教員から教科書等を指示する。
担当者プロフィール	チャールズ・ウォーゼン：広島市立大学大学院芸術学研究科彫刻研究教授。ミクストメディアの創作・研究を専門領域とする。 康夏奈：(非常勤講師)現代美術作家。体験した場所のリアリティーをモチーフとして、二次元と三次元を交錯させるような平面、立体作品を創作・研究している。 七瀬綾乃：広島市立大学芸術学部彫刻専攻助教。木彫の創作・研究を専門領域とする。
備考	

科目名	造形計画研究 I
単位数	8.0
担当者	教授: 南昌伸、及川久男、吉田幸弘、倉内 啓、永見文人、笠原 浩 准教授: 大塚智嗣、野田睦美 講師: 中村圭、藤江竜太郎、有持 旭、青木伸介
履修時期	通年
履修対象	1年次
概要	授業形態(実習) 専攻の教育・研究の主軸である「高次元の生活文化の創造」を基盤に据え、デザイン分野、工芸分野、および理論分野の各分野が 制作および研究内容の成果の充実と質の向上を目的とし、制作および研究についての指導を行う。 提出された研究計画をもとに、制作、研究方法について担当教員が個別指導を行なう。また、造形計画研究における全担当教員による総合指導(通年2回程度)を行う。
科目の到達目標	受講生の専門分野において、調査、研究、分析能力を身に付ける。また、高度な創作研究が行なえる様、研究テーマに対するの思考力と展開力を身に付ける。 (視覚造形) 視覚伝達デザインを中心に造形計画研究の総合的な研究を行う。 (立体造形) 生活のなかのプロダクトデザイン、社会的な立体造形の領域を中心に造形計画の総合研究を行う。 (映像メディア造形) 情報機器の多様な手法・表現を用いて、旧来の芸術表現との連携、融合を図り先進的な表現へと展開する能力を養うことを目的とする。 (金属造形) 各自の研究テーマを明確にし、自己の作品性の確立を図り、新たな問題提起と解決能力を養う。 (染織造形) 個々の研究テーマを深く探究し作品のコンセプトを確立させ、同時に作品の完成度を高める。また、染織造形の作品を中心に現代の美術の動向を把握し、自身の作品を客観的に捉える能力を身につける。 (漆造形) 漆造形を中心に造形計画研究の総合的な研究を行う。
受講要件	特になし。
事前・事後学修の内容	各自の研究テーマに沿って十分な調査と、資料収集を行なう。 進捗状況に応じて必要となってくる調査や技術的問題等を解決するための施策を実践する。 教員、学生間での意見交換を積極的に行い、常に課題を整理し研究ノートとして記録を取る様にする。 他の学生の研究にも興味を持つようにする。
講義内容	視覚造形、立体造形、映像メディア造形、金属造形、染織造形、漆造形の各専門分野における造形計画研究の総合的な研究を行う。 1週～5週 研究計画のプレゼン、研究計画の見直しと調整、研究課題の整理、調査 6～14 研究の推進、 15 研究成果プレゼンテーション(中間発表) 16～29 研究の推進、 30 研究成果プレゼンテーション(最終発表)
評価方法	下記の1)、2)の評価を合わせ総合評価とする。 1、研究計画および研究スケジュールに基づいた、作品、ポートフォリオ、研究レポートの提出と同プレゼンテーションによる評価 2、後期1回の総合指導に於ける評価(提出作品および研究報告)
教科書等	(視覚造形) 適宜、必要に応じて資料提供、資料収集の指導を行う。 (立体造形) 随時、図書館、スタジオなどでガイダンスを実施し、資料の紹介と提供をおこなう (映像メディア造形) 各制作に応じて参考資料等、随時配布又は紹介する。 (金属造形) 適宜、必要に応じて資料提供、資料収集の指導を行う。 (染織造形) 各々の課題に応じて参考資料等、随時配布又は紹介する。 (漆造形) 適宜、必要に応じて資料提供、資料収集の指導を行う。
担当者プロフィール	(視覚造形) 及川久男(グラフィックデザイナー) 中村圭(デザイナー) (立体造形) 吉田 幸弘(デザイナー)、藤江竜太郎(作家) (映像メディア造形) 笠原浩(映像メディアデザイナー)、有持 旭(作家) (金属造形) 南昌伸(金属造形作家)、永見文人(金属造形作家) (染織造形) 倉内 啓(染作家)、野田睦美(織作家) (漆造形) 大塚智嗣(漆芸作家)、青木伸介(漆芸作家)
備考	

科目名	造形計画研究Ⅱ
単位数	8.0
担当者	教授: 南昌伸、及川久男、吉田幸弘、倉内 啓、永見文人、笠原 浩 准教授: 大塚智嗣、野田睦美、 講師: 中村圭、藤江竜太郎、有持 旭、青木伸介
履修時期	通年
履修対象	2年
概要	造形計画研究Ⅰに於ける研究成果の習得をもとに、さらなる展開と研究を深め、修了制作および研究計画報告書としてまとめあげる。また、制作および研究内容の成果の充実と質の向上を目的とし、その過程における制作および研究についても造形計画研究Ⅰと同様に指導を行う。 造形計画研究Ⅰにおける修得をもとに、さらなる展開と探究を進めて、その到達を計画及び制作としてまとめあげる。
科目の到達目標	造形計画研究Ⅰにおける成果を基に、受講生が各自の研究テーマを専門的に掘り下げ、内容、質ともに高めていく事のできる高度な研究能力を身に付ける。 (視覚造形) 視覚伝達デザインを中心に造形計画研究の総合的な研究を行う。 (立体造形) デザインの構想を計画的に具体化するため、造形表現をすすめ社会に対するメッセージとし発信する。 (映像メディア造形) 各自の研究テーマを基に、社会が求める新たな表現領域への展開を目的とした表現制作を行う。 (金属造形) 造形計画研究Ⅰをベースに、各自の研究テーマをより明確にし、展開を進め修了制作として完成度を上げることを目的とする。 (染織造形) 修了制作を通して個々の研究テーマをまとめ、プレゼンテーションする。また、染織造形の作品を中心に現代の美術の動向を把握し、自身の作品と社会との接点を考察する。 (漆造形) 漆造形を中心に造形計画研究の総合的な研究を行う。
受講要件	指導教員からのガイダンスのもと、指導教員と研究計画の再確認と研究スケジュールの調整を行う事。
事前・事後学修の内容	各自の研究テーマに沿って十分な調査と、資料収集を行なう。 進捗状況に応じて必要となってくる調査や技術的問題等を解決するための施策を実践する。 教員、学生間での意見交換を積極的に行い、常に課題を整理し研究ノートとして記録を取る様にする。
講義内容	視覚造形、立体造形、映像メディア造形、金属造形、染織造形、漆造形の各専門分野における造形計画研究の総合的な研究を行う。 1週～5週 研究計画のプレゼン、研究計画の見直しと調整、研究課題の整理、調査 6～14 研究の推進、 15 研究成果プレゼンテーション(中間発表) 16～29 研究の推進、 30 研究成果プレゼンテーション(最終発表)
評価方法	下記の1)、2)の評価を合わせ総合評価とする。 1、研究計画および研究スケジュールに基づいた、作品、ポートフォリオ、研究レポートの提出と同プレゼンテーションによる評価 2、後期1回の総合指導に於ける評価(終了制作提出作品および研究報告)
教科書等	(視覚造形) 適宜、必要に応じて資料提供、資料収集の指導を行う。 (立体造形) 随時、図書館、スタジオなどでガイダンスを実施し、資料の紹介と提供をおこなう (映像メディア造形) 各制作に応じて参考資料等、随時配布又は紹介する。 (金属造形) 適宜、必要に応じて資料提供、資料収集の指導を行う。 (染織造形) 各々の課題に応じて参考資料等、随時配布又は紹介する。 (漆造形) 適宜、必要に応じて資料提供、資料収集の指導を行う。
担当者プロフィール	(視覚造形) 及川久男(グラフィックデザイナー) 中村圭(デザイナー) (立体造形) 吉田 幸弘(デザイナー)、藤江竜太郎(作家) (映像メディア造形) 笠原浩(映像メディアデザイナー)、有持 旭(作家) (金属造形) 南昌伸(金属造形作家)、永見文人(金属造形作家) (染織造形) 倉内 啓(染作家)、野田睦美(織作家) (漆造形) 大塚智嗣(漆芸作家)、青木伸介(漆芸作家)
備考	

科目名	視覚造形演習
単位数	2.0
担当者	及川久男 教授
履修時期	通年
履修対象	博士前期1年
概要	授業形態『演習』 視覚造形の目的は伝達にある、視覚による伝達は、人間の目の感覚に訴えて何らかの内容を伝えよう(あるいは伝えられよう)とする行動であり、私たちの生活に於いて人間の持つ五感覚の中で80パーセントを超える大きなウェイトを占める分野である。 視覚造形の幅広い領域の中に自己のアイデンティティとテーマ確立し研究に取り組む。
科目の到達目標	視覚造形の幅広い領域の中に、自己のアイデンティティとテーマを確立し、研究に取り組みながら、自らの進むべき道を切り開いてゆく。
受講要件	大いなる好奇心と探究心を持っている事。
事前・事後学修の内容	知力と体力と精神力を養ってほしい。
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. グラフィック・デザイナー・リサーチ(調査) 2. グラフィック・デザイナー・リサーチ(考察) 3. グラフィック・デザイナー・リサーチ(まとめ・プレゼンテーション) 4. 広島から発信するポスター(テーマの決定) 5. 広島から発信するポスター(調査・分析と考察) 6. 広島から発信するポスター(制作) 7. 広島から発信するポスター(展示発表・コンペティション) 8. 研究計画書にのっとった各自の研究 9. 研究テーマについての考察(ディスカッション) 10. 研究テーマの調査と分析 11. 研究プランの立案と計画(研究計画書の調整) 12. 研究テーマ企画の展開 13. 研究テーマの実施と制作(表現技術の習得) 14. 公開展示(ディスプレイとプレゼンテーションテクニック) 15. 講評 16. 記録(プロファイリング)
評価方法	研究に取り組む姿勢と提出作品により評価
教科書等	各自に適時紹介する
担当者プロフィール	本学のホームページ等、参照
備考	

科目名	映像メディア造形演習
単位数	2.0
担当者	教授 笠原 浩、講師 有持 旭
履修時期	通年
履修対象	1年次
概要	日常を取り巻く環境にも、ネットワークやコンピュータをはじめとする電子メディア機器の利用により新しいライフスタイルが出現している。それに伴いアート領域も爆発的に拡大してきている。多様化するメソッドとマテリアルは、新しい表現領域生み出し絶えず展開している現状を踏まえ、少人数のゼミ形式で今後の表現のあり方を探求し実践する。
科目の到達目標	受講生各自の設定する目的に応じた表現を追求する。そこでは固定化することのない、あたらしい時代の意識を取り入れる柔軟な思考を発展させる。対外的に公開発表することを見据え、時代の先端と自己の表現とを照らし合わせ、その可能性を展開させる創作表現を行う。
受講要件	特になし
事前・事後学修の内容	関連する展覧会、催しには積極的に参加する。
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. メディアの歴史研究 2. 情報収集 3. 取材及び分析 4. 自己の表現の探求 5. 表現技術の研究 6. 作品制作 7. 公開展示、発表
評価方法	発展・展開の可能性を軸に、研究に対する姿勢と、成果作品により評価する。また、期末に行われる成果報告発表におけるプレゼンテーションも重要な評価要素とし、それらを合わせ総合的に評価し点数化する。そしてそれぞれ「可」「良」「優」と段階評価し、特に優れた表現をしたものを「秀」とする。
教科書等	
担当者プロフィール	
備考	

科目名	立体造形演習
単位数	2.0
担当者	教授・吉田幸弘
履修時期	1・2年
履修対象	1年
概要	立体物のデザインをすすめるため、その計画から具体化に至る基礎的な展開として位置づける。課題テーマに応じ社会と立体造形、生活とプロダクトデザインのかかわりからテーマを設定し、その発想、計画、構想、ならびに作品の具体化について感性と計画性の基本プロセスを学ぶ。最終的には、作品展示とドキュメントの制作をすすめる。 「授業形態: 演習」
科目の到達目標	立体造形作品やプロダクトデザインの計画的な研究と製作を通し、造形とその具体化のための実現能力をつける。
受講要件	
事前・事後学修の内容	自分の製作理念とその作品への反映をすること。積極的に公募展に応募、発表する。
講義内容	<p>【前期】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 課題の主旨説明、研究計画書の指導 2. テーマ設定のための調査 3. テーマ設定における背景、分析 4. テーマにおける造形概念の形成 5. アイデアの展開(スケッチ、モデル作成等) 7. アイデアの収斂 8. 中間発表(ブレ卒制・修了展等) <p>【後期】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 具現化に向けての設計 2. 実制作 3. 検証とリファイン 4. 仕上げ 5. 作品の撮影、ドキュメント作成 6. 学内展示での採点、講評 7. 卒業制作・修了展に向けての展示計画 8. 卒業制作・修了展で発表
評価方法	作品、ポートフォリオ 作品提出することを単位取得の最低条件とし、コンセプト、独創性、完成度の高い表現を(良)、さらに優れたものを(優)、特に秀でたものを(秀)とする。
教科書等	自分の造形ノートを作り、それを指導する
担当者プロフィール	吉田 幸弘(デザイナー 立体造形分野 教授)
備考	

科目名	金属造形演習
単位数	2.0
担当者	教授 南昌伸、教授 永見文人
履修時期	通年
履修対象	1年次
概要	授業形態『演習』 造形計画研究における各自のテーマ性と関連付けられる、幅広い視点からの取材、調査、分析を行ない、考察を通じた実験的制作研究を行う。
科目の到達目標	幅広い視点から、金属工芸、金属造形を考察し、造形計画研究における制作研究の独創性を引き出すとともに、制作の質を高めていける力を身につける。
受講要件	指導教員と事前に造形計画研究における研究テーマと本研究内容との整合性について調整、確認を行なっていること。
事前・事後学修の内容	造形計画研究におけるテーマとの整合性を図りながら、事前の調査、整理を行なうこと。 研究テーマの展開を即すために幅広い視点からの考察と、実験的試みを出来る限り多く行なうようにする。
講義内容	第1回 導入、研究テーマのプレゼンテーション、研究テーマの考察(ディスカッション) (教授 南 教授 永見) 第2回 研究テーマのプレゼンテーション、研究テーマの考察(ディスカッション) (教授 南 教授 永見) 第3回 取材、調査、 第4回 取材、調査、 第5回 分析 第6回 分析 第7回 プレゼンテーション(ディスカッション) (教授 南 教授 永見) 第8回 素材と技法研究 第9回 素材と技法研究 第11回 素材と技法研究 第12回 素材と技法研究 第13回 素材と技法研究 第14回 素材と技法研究 第15回 中間発表(ディスカッション)(教授 南 教授 永見) 第16回～制作 第27回 制作 第28回 作品提出 第29回 展示公開 第30回 まとめ(教授 南 教授 永見)
評価方法	研究報告書、提出作品、プレゼンテーションをそれぞれ点数化し、それらを総合して評価する。 研究報告書と作品を提出する事を単位取得(可)の最低条件とする。研究の独創性と高い表現を(良)、優れたものを(優)、特に優れたものを(秀)とする。
教科書等	必要に応じて、資料を配布する。
担当者プロフィール	教授 南昌伸(金属造形作家)、教授 永見文人(金属造形作家)
備考	

科目名	漆造形演習
単位数	2.0
担当者	准教授 大塚 智嗣
履修時期	通期
履修対象	1年
概要	古くから人間生活と深い係わりを持つ漆に対し、その沿革、性質、用具材料、多岐にわたる漆芸技法を概説するとともに、漆がもたらす美の典型や現代における漆の現存性を思考し、探るための演習をおこなう。
科目の到達目標	漆の表現方法は技法により様々であるが、その技一つをとっても、歴史、地域性、目的等により異なる。ねらいとしては現代評価されている作家、企業の方の講義等も含め、表現することの必然性を認識し、今後展開すべき漆造形の可能性を探る。
受講要件	漆に関する基礎知識を認識、又は基礎技術を修得しているものとする。
事前・事後学修の内容	研究目的を明解にし、積極的な取り組みを望む。
講義内容	漆の育成法、採取法について 様々な技法の講義(年度により異なる) 様々な道具の講義(年度により異なる) 保存修復の講義など
評価方法	研究状況、作品提出、レポート提出、作品講評を評価 作品及び研究レポートを提出することを単位取得「可」の最低条件とする。コンセプト、独創性、完成度の高い表現を「良」、優れたものを「優」特に優れたものを「秀」とする。
教科書等	随時配布
担当者プロフィール	大塚、青木の他年間2名の先生の特別講義をおこなう。 漆加飾特別講義：未定 漆樹植栽演習：小野忠司 備中漆新見研修所「漆の館」館長
備考	

科目名	染織造形演習
単位数	2.0
担当者	教授 倉内 啓、准教授 野田睦美 非常勤講師 野田涼美、非常勤講師 外館和子
履修時期	通年
履修対象	1・2年次
概要	「授業形態: 演習」 造形計画研究で行っている研究テーマに基づいて制作した作品を展示し、プレゼンテーションを行う。 学生と教員とのディスカッションによる作品の講評を通し、その応用や新たな展開を探る。
科目の到達目標	作品に対する他者からの講評をもとに、自己の表現の再構築を試みる。
受講要件	計画性を持って積極的に研究に取り組むことが望ましい。
事前・事後学修の内容	研究テーマに関連する図書や展覧会等を通じ自己意識を確立させ、制作後は作品の記録とプロセスをまとめること。(ポートフォリオの作成) 主たる指導教員と相談の上、計画書を作成し研究を行なうこと。
講義内容	第1回: 導入・全体ガイダンス 授業の概要説明 第2回: 研究テーマと、個々の研究の経緯についてプレゼンテーション 第3回: 提出された研究テーマを基に、担当教員との調整、助言 第4回: 研究テーマ、研究計画のプレゼンテーション 第5回: 意見交換後の研究テーマの考察、調整、修正 第6回: 調整後の研究テーマについて、担当教員からの助言 第7回: 研究計画書の作成 第8回: 研究計画について担当教員による指導、助言 第9回: 研究計画の修正 第10回: 個々のテーマに関する事例調査、資料等の収集 第11回: 収集した研究事例の整理、分析 第12回: 整理した事例の分析 第13回: 制作の構想／素案作成 第14回: 制作の構想／素案提示 担当教員との意見交換、助言 第15回: 制作の構想／修正 第16回: 構想に基づく実験の考察 第17回: 実験の結果についての担当教員の助言 第18回: 構想に基づく実験結果の修正(素材的側面及び技術的側面から) 第19回: 本制作 実験の検証結果と本制作との考察 第20回: 本制作 本制作の考察に対する担当教員からの助言 第21回: 本制作 制作初期過程における担当教員の総合的指導 第22回: 本制作 制作中期過程における担当教員の総合的指導 第23回: 本制作 制作後期過程における担当教員の総合的指導 第24回: 本制作 制作完成前における担当教員の総合的指導 第25回: 本制作 完成 担当教員による確認、調整 第26回: 本制作 完成作品提出 第27回: プレゼンテーション資料制作 第28回: 制作作品最終提出 確認 講評会の為の展示、セッティング 第29回: 合同発表会(公開講評)／研究成果プレゼンテーション(染織造形教員全員参加) 第30回: 作品撮影、ポートフォリオ用資料制作、レポート提出
評価方法	研究計画案と作品の提出およびプレゼンテーション(講評日)を担当の教員が点数化し評価する。作品提出することを単位取得「可」の最低条件とし、コンセプト、造形力及び技術力のある完成度の高い表現を「良」、優れたものを「優」とし、特に優れたものを「秀」とする。 また、作品の写真・レポートの提出を課す。
教科書等	各々の課題に応じて参考資料等、随時配布又は紹介する。
担当者プロフィール	倉内 啓(染作家) 野田睦美(織作家) 野田涼美(テキスタイルアーティスト、京都市立芸術大学特任教授) 外館和子(美術評論家、多摩美術大学非常勤講師)
備考	合評日(公開プレゼンテーション)には、必ず参加のこと。

科目名	現代美術特別演習
単位数	2.0
担当者	教授 鰐澤 達夫
履修時期	通年
履修対象	博士前期1年
概要	「サイトスペシフィック／フィールドワーク」での研究をさらに進めた形で実践に移す、作品と場所性が十分計られ、検討されて作品に反映されているかを思考する
科目の到達目標	フィールドワークによって、特定の場所のもつ特徴や問題を見分ける能力を高める 作品の制作や展覧会の企画を通して、その場所に介入する方法を習得する
受講要件	特になし
事前・事後学修の内容	定期的にプレゼンテーションとディスカッションを行い、 実践的な観点から、実際に現場をリサーチして、歴史的等 その場の特徴を十分把握、検討しておく事
講義内容	広島市唯一の芸術学部で学ぶ院生として、広島市の歴史と都市空間について考察する機会を持つことはとても重要な事である 広島は、しばしば原爆によってそれ以前の歴史がなくなった都市だと言われるが しかしそれは本当だろうか？ 原爆以前の歴史は、土地の名前や寺社の場所の中に生きながらえて、区画が再建されるたびに、そのアイデンティティを再生産しているのではないだろうか？ フィールドワークを行いながら、作品制作や展覧会の形で、広島市に対する新たな読解、状況介入の方法を提示する
評価方法	プレゼンテーション、ディスカッション、展覧会の企画内容と作品で総合的に評価する
教科書等	特になし
担当者プロフィール	鰐澤達夫 教授 現代美術家 アートディレクター
備考	

科目名	創作総合研究 I
単位数	2.0
担当者	博士後期課程 実技系指導教員全員
履修時期	通年
履修対象	1年
概要	実技系教員は、学生の研究領域のテーマに応じて、分担または合同で実技制作の研究指導を行う。これは、次年度に設定される「創作総合研究 II」の指導のための前提となる研究である。
科目の到達目標	受講生が客観性をもって論文テーマと作品との整合性をとりながら、研究としての独自性に繋げる力を身につける。
受講要件	芸術学研究科博士後期課程所属し作家、デザイナー、研究者としての自覚を持って研究を遂行する強い意志があること。
事前・事後学修の内容	高次元の制作研究が行えるよう、調査、展覧会視察等を常に心掛けるようにする。 事後学修として展覧会、アートプロジェクト等、積極的に社会と接することを実践するようにする。
講義内容	<p>1～5 研究計画の検討、調整、調査、研究の推進 6～17 調査、研究の推進 18 研究経過発表(中間発表) 19～29 研究の推進 30 研究成果発表(中間発表)</p> <p>〔絵画領域〕 日本画と油絵に関する教育研究を行い、藁谷教授が全体の研究を監修する。 (日本画研究) 日本画の伝統技法及び材料等の理解をより一層深め、個性的な創造力の育成と精神性の確立に向けて指導する。その指導にあたっては、下記の教員3名により分担または合同で行う。 ○各自のテーマに沿い、日本画制作を主体にその特質を探求し、独創的表現を培うべく指導するとともに、日本画研究全体の監修を行う。(藁谷教授) ○将来にわたる自主的研究、制作活動の礎となるテーマの深化とこれに必要な技法、表現能力向上のための研究手法獲得を目指して指導を行う。(今村准教授) ○日本画の制作及び古典作品の模写から材料、技法、表現についてより専門的な指導をする。(前田准教授) ○各自の個性に沿う日本画研究や日本画表現、独自の絵画表現の探求について指導する。(荒木准教授) (油絵研究) 西欧絵画の根底にある写実精神を基盤に、油絵の技法及び材料の理解をより一層深め、高度な創造的製作の資質を養成するための指導を行う。 ○流行におもねることなく、旧弊の価値観にもとらわれない造形的思考を促し、自己の絵画表現を見つめる手段を考えさせる。(大矢教授) ○自己の創作に必要な理念を確立することを目標に課題を設定する。(森永准教授) ○表現における思考性や多様性を研究し、自身の作品制作の表現内容の概念構築と展開を促す。(志水準教授)</p> <p>〔彫刻領域〕 作品の創作、研究を通して、高度な彫刻的造形力及び精神性を養う。塑造、石彫、木彫、金属、テラコッタ及びミクストメディアなど、専門的素材研究の中から、その技法及び表現を探求させるよう指導する。 ○石彫及び塑造制作全般を中心に、彫刻性についての理論とその表現方法を指導し、造形する意義とその技法を探究させるとともに、彫刻領域全体の監修を行う。(前川教授) ○塑造制作全般及び金属を中心としたいくつかの素材を組み合わせたミクストメディア彫刻を中心に指導し、また理論系教員との連携を図りつつ、作品制作とその理論的研究の指導を行う。(伊東教授) ○ミクストメディア及びテラコッタを中心に指導し、また理論系教員との連携を図りつつ、作品制作とその理論的研究の指導を行う。(チャールズ・ウォーゼン教授)</p> <p>〔造形計画領域〕 造形計画に関する教育研究を行い、南教授がデザイン・工芸研究全体を監修する。 (デザイン研究) 技術革新や表現メディアの進展に対応した、より高度で多様な表現について、各専門分野との連携を保ちつつ、研究指導を行う。学生の研究テーマに応じ、その造形表現について、次の「創作総合研究 II」に展開するための研究として行う。 ○プロダクトデザイン、立体造形分野を中心に人間生活の中でのモノのありようを考察し、研究指導を行う。(吉田教授) ○映像メディア造形分野、特に映像制作表現における技法的取り組みを、その歴史的観点から考察し、その表現展開の研究指導を行う。(笠原教授) ○視覚造形分野を中心に、人間社会に於ける視覚による伝達のあり方と造形表現について考察し研究指導を行うとともに、デザイン研究全体の監修を行う。(及川教授) ○現代美術を中心に、作品制作における表現内容の概念構築と、インスタレーション作品等の設置、記録、プレゼンテーション等の総合的研究指導を行う。(鰐澤教授)</p> <p>(工芸研究) 実材系分野である工芸において培われてきた、わが国独自の表現方法の修得と素材研究及び新たな表現方法について研究指導を行う。 ○金属造形分野を中心に、金属材料の多様性を歴史的視点から研究・考察し、新たな金属表現の可能性を見出し、独創的な表現研究に繋がるよう研究指導を行なう。また工芸研究全体の監修を行う。(南教授) ○金属造形分野を中心に材料と技法について理解を深めさせ、学生の研究テーマに沿った造形に役立つよう指導する。(永見教授) ○染織文化の多様性を歴史的観点から考察し、その表現方法のさらなる可能性を模索し、現代的創作作品</p>

	への展開を導く。(倉内教授) ○(野田准教授)○染織造形における新しい分野の創造と発展を求めて、伝統的な染織技術を基盤とした独自の造形表現を展開できるよう研究指導を行う。(野田准教授)○漆造形制作全般を主とした研究を行う。歴史、技術等とともに、現代における表現方法を探究するよう指導する。(大塚准教授)
評価方法	研究過程、制作作品の内容、成果をもって評価する。
教科書等	特になし。
担当者プロフィール	
備考	

科目名	創作総合研究Ⅱ
単位数	2.0
担当者	博士後期課程 実技系指導教員全員
履修時期	通年
履修対象	2年
概要	「創作総合研究Ⅰ」における各自の研究の成果を踏まえて、さらに作家、デザイナー、研究者としての自律的で高度な創造的制作の素質を養成するための研究を行う。
科目の到達目標	受講生が論文テーマと作品との整合性を高めながら、高度な創作研究を行ない、独自性のある高次元の作品として成果を残し、質の高い研究発表ができる力を身に付ける。
受講要件	芸術学研究科博士後期課程所属し作家、デザイナー、研究者としての自覚を持って研究を遂行する強い意志があること。
事前・事後学修の内容	高次元の制作研究が行えるよう、調査、展覧会視察等を常に心掛けるようにする。 事後学修として展覧会、アートプロジェクト等、積極的に社会と接することを実践するようにする。
講義内容	<p>1～5 研究計画の検討、調整、調査、研究の推進 6～17 調査、研究の推進 18 研究経過発表(中間発表) 19～29 研究の推進 30 研究成果発表(中間発表)</p> <p>〔絵画領域〕 Ⅰにおける研究成果を踏まえ、より高度な日本画と油絵に関する教育研究を行い、藁谷教授が全体の研究を監修する。 (日本画研究) Ⅰにおける成果を踏まえ、より高度な創作活動を目指した指導を行う。その指導にあたっては、下記の教員3名により充実した対応をする。 ○絵画理念を深め、独創的表現を探究し、新しい自己表現の可能性を図るべく指導するとともに、日本画研究全体の監修を行う。(藁谷教授) ○Ⅰを踏まえ、引き続き日本画研究を行い、創作の実践を通して精神性を深め、独自の表現を追及する。(今村准教授) ○古典研究から得られた知見から創作表現への展開に向け指導する。(前田准教授) ○Ⅰに引き続き各自の絵画表現が深まるよう制作と思考を軸に表現の模索を指導する。(荒木准教授)</p> <p>(油絵研究) 油絵の現代における表現と新しい理念の確立に向けて指導する。 ○Ⅰでのアプローチを踏まえ、絵画表現とその技法を制作を通して実践する中で、各々のテーマの確認或いは再発見を目指す。(大矢教授) ○自己の創作に必要な方法論を確立することを目標に創作研究を行う。(森永准教授) ○表現における思考性や多様性を研究し、自身の作品制作の表現内容の概念構築と展開を促す。(志水準教授)</p> <p>〔彫刻領域〕 Ⅰにおける研究成果を踏まえ、より高度な彫刻的造形力及び精神性を養い、独創的な創作研究を行う。Ⅰに挙げた専門的素材研究の中から、その技法及び表現を探究するための指導をする。 ○東洋、西洋における彫刻の精神性を重視し、より幅広い高度な表現に結びつけるよう指導する。(前川教授) ○彫刻における素材と造形との必然的関係を制作を通して探り、現代における彫刻表現の可能性を追求する。(伊東教授) ○美術表現とその背景としての文化を世界的視野で研究し、より創造的な現代の美術表現を探求する。(チャールズ・ウオーゼン教授)</p> <p>〔造形計画領域〕 Ⅰにおける研究成果を踏まえ、より高度な造形計画に関する教育研究を行う。南教授がデザイン・工芸研究全体を監修する。 (デザイン研究)Ⅰの研究成果を踏まえ、学生の研究テーマにおける造形表現の進展を図る。より自律的で高度な創造制作へ向けて、各々の研究テーマ及び研究計画に沿って、各専門分野を綿密に連携させつつ、研究指導を行う。 ○プロダクトデザイン、立体造形分野を中心に前年度の研究成果を踏まえ、より高度な造形研究指導を行う。(吉田教授) ○映像メディア造形分野、特に映像制作表現におけるメディア(媒体)展開を中心に、造形表現の社会的役割を考察し研究指導を行う。(笠原教授) ○ヴィジュアルコミュニケーションデザインを中心として、前年度の研究成果を踏まえ、人間社会に於けるコミュニケーションのあり方と造形表現について研究指導を行うとともに、デザイン研究全体の監修を行う。(及川教授) ○芸術空間の歴史的系譜を踏まえ、現代美術における空間の認識と構築をより深め、個々の作品について研究指導を行う。(鰐澤教授)</p> <p>(工芸研究) 前年度の研究成果を踏まえ、各々の研究テーマ及び研究計画に沿って、造形計画領域内の各専門分野を綿密に関連させつつ研究指導を行う。 ○Ⅰの成果を踏まえ、金属造形のより高度で、創造的表現について研究指導を行なう。(南教授) ○Ⅰの研究成果を踏まえ、更に高度な、金属造形の表現へと発展するよう、研究指導する。(永見教授) ○Ⅰの研究成果を踏まえ、染織造形分野での多様な展開が、現代社会の中でより密接に関連し機能するよ</p>

	う研究指導を行う。(倉内教授) ○ I の研究成果を踏まえ、独自の染織技術と創作研究がより高度な造形表現へと発展するように指導する。(野田准教授) ○ 漆造形制作を中心に前年度の研究を踏まえ、より高度で独創的創造表現に向け指導する。(大塚准教授)
評価方法	研究過程、制作作品の内容, 成果をもって評価する。
教科書等	特になし。
担当者プロフィール	
備考	

科目名	領域横断特別研究
単位数	2.0
担当者	博士後期課程指導教員全員
履修時期	通年
履修対象	1・2年
概要	この研究では、実技系と理論系の教員が共同で研究指導にあたる。学生の研究志向に応じて、絵画領域、彫刻領域、造形計画領域、理論領域を横断して研究を行うものである。研究にあたっては、絵画領域(日本画研究・油絵研究)、彫刻領域、造形計画領域(視覚・立体・空間・映像情報・金属・漆・染織)の中から、学生の専門領域、研究分野と異なる研究領域、研究分野を選択し、希望する担当教員の指導を受けて研究を進める。指導は受入先の教員が中心となって行なっていくが、中間発表2回、最終報告会は、関係教員全員が全員参加意見交換を行なう。
科目の到達目標	受講生が専門領域外での横断的研究を行なうことで、新たな体験から生まれる思考性や創造性を引出し、各自の研究を展開していくための応用力を身に付ける。
受講要件	横断先の教員と事前に相談の上、研究内容の確認と了解を確実に取っておくこと。 また、所属研究分野の主旨導教員とも事前に確認と了解を取っておくこと。
事前・事後学修の内容	横断先の教員と事前に研究計画を確認、調整を行なった上で十分な事前学習、調査をする。 主体的に研究を進め、担当教員の指導を積極的に受け、効率よく研究を進めるようにする。 他の学生の研究に対しても興味をもち、相互の研究について積極的に意見交換を行なうようにする。 研究過程、成果を詳細にまとめ、各自の研究の展開に繋がられるようにする。
講義内容	<p>1 横断先での研究計画の検討、調整発表、横断先での講義、調査、研究の推進</p> <p>2 横断先での研究計画の検討</p> <p>3 横断先での研究計画の検討</p> <p>4 横断先での研究計画の発表(合同中間発表)</p> <p>5 調査、研究</p> <p>6 調査、研究</p> <p>7 調査、研究</p> <p>8 調査、研究</p> <p>9 調査、研究</p> <p>10 調査、研究</p> <p>11 調査、研究</p> <p>12 調査、研究</p> <p>13 調査、研究</p> <p>14 調査、研究</p> <p>15 研究途中経過発表(合同中間発表)</p> <p>16 研究</p> <p>17 研究</p> <p>18 研究</p> <p>19 研究</p> <p>20 研究</p> <p>21 研究</p> <p>22 研究</p> <p>23 研究</p> <p>24 研究</p> <p>25 研究</p> <p>26 研究</p> <p>27 研究</p> <p>28 研究成果発表(合同最終発表)</p> <p>29 まとめレポート作成</p> <p>30 まとめレポート作成</p> <p>19~29 研究の推進</p> <p>30 研究成果発表(合同最終発表)</p> <p>【実技系】 〔絵画領域〕 日本画と油絵における技法及び表現について教育研究を行い、藁谷教授が全体の研究を監修する。 (日本画研究) 学生の研究志向に応じた指導をするとともに、顔料、墨及び紙本、絹本、箔等、材料の理解を深め、幅広い実技経験をさせるよう指導する。 ○日本画の写生論、日本画制作全般及び箔、泥、墨技法の指導をするとともに、日本画研究全体の監修を行う。(藁谷教授) ○日本画の基礎的な技法、材料の指導を通して認識を深め、専門分野における創作活動の広がりを目指す。(今村准教授) ○日本画の制作及び古典作品の材料、技法、表現について指導する。(前田准教授) ○日本画制作と技法、日本画材の持つ色彩とその用法について指導する。(荒木准教授) (油絵研究) 学生の研究志向に応じて、油絵技法を体験させ、その理念の考察を通じて、現代における絵画表現についての研究指導を行う。 ○他の造形芸術分野との関係と差異を考慮しながら、西洋絵画の基本的な考え方と技法の実際を指導する。(大矢教授) ○ヨーロッパの古典絵画の系譜について研究するとともに自己の世界観の確立を目指す。(森永教授)</p>

○表現における思考性や多様性を研究し、自身の作品制作の表現内容の概念構築と展開を促す。(志水準教授)

〔彫刻領域〕

学生の研究テーマに添って必要な彫刻的技術を指導し、造形力、精神性を養い、他領域との融合を図る。
○石彫を中心に技術指導を行うと共に、環境芸術を含む彫刻領域について幅広い芸術創造の研究・指導を行う。(前川教授)
○塑造、金属及び複数の素材を組み合わせるミクストメディアを中心に、技術及び造形研究の指導を行う。(伊東教授)
○ミクストメディア等を中心に技術指導を行い、現代における造形芸術の研究・指導を行う。(チャールズ・ウォーゼン教授)

〔造形計画領域〕

各々の研究テーマに応じて、各専門分野を綿密に連携させつつ、領域横断的に教育研究を行う。南教授がデザイン・工芸研究全体を監修する。
(デザイン研究)
造形表現とそのあり方についての探究を行う。各々の研究テーマについて、多角的な観点による制作思考の展開と造形表現の進展を促し、より高度な造形表現の確立に向け研究指導を行う。
○プロダクトデザインを中心に人間生活の中でのモノのありようを考察し、個々のテーマに基づき多角的な研究指導を行う。(吉田教授)
○造形表現における映像メディア(媒体)展開を中心に、造形表現の社会的役割を考察し研究指導を行う。(笠原教授)
○視覚造形領域を中心に、各々の研究テーマについて、他の領域とともに、ヴィジュアルコミュニケーションのあり方と、新たな表現について研究指導を行うとともに、デザイン研究全体の監修を行う。(及川教授)
○作品の概念構築を中心に、他者、社会に対して、どのようなプレゼンテーションを行うかについて、現代美術の観点から考察し、研究指導を行う。(鰐澤教授)
(工芸研究)
工芸素材、工芸技法の基本姿勢を修得させ、各々の創作研究における質的拡充を目指して、理論的思考を伴う多角的な研究指導を行う。また、各専門分野を横断的に連携させることによって、工芸研究全体の研究指導にあたる。
○各自のテーマに応じて、金属材料と技法等を柔軟な視点から考察し、有意義な実験的研究に繋がるよう研究指導を行なう。また、工芸研究全体の監修を行なう。(南教授)
○金属造形の基礎的な、材料の知識と造形技法について指導し、各自の専門分野に応用できるよう指導する。(永見教授)
○各々のテーマに応じた創作研究の展開を多角的な観点で捉え、染織造形分野の技法と素材を基にした工芸的な発想や視点によるもの創りの手法を導入し、より幅広い造形表現方法を思考させる。(倉内教授)
○遥か昔から現在まで染織は人間にとってなくてはならない分野であり、様々に発展してきた歴史を踏まえ、各自のテーマと染織が融合した新しい研究活動へと展開できるように指導する。(野田准教授)
○漆造形分野では研究内容において漆素材を扱う必然性、及び漆に対する基本的知識を把握していることを前提とし、各自の研究に即した漆の技法、理論指導を行う。(大塚准教授)

【理論系】

芸術創作の横断的試みに対して理論的側面から研究指導を行う。
○美学の諸概念の理解を踏まえつつ、それを批判的に検討した上で、芸術創作の基盤となるよう指導する。(関村教授)
○東洋・日本美術の古典的な芸術論や作品を、各自の制作にどのように応用・反映させうるかについて、必要な知識を得られるよう指導する。(城市准教授)
○領域横断的に展開する現代美術の歴史を理解した上で、理論的な問題関心を作品制作にどのように活かすのかを学ぶことができるように指導する。(石松准教授)

評価方法

2回の中間発表と最終の成果報告会そして報告書の提出を課している。いずれも主担当教員、領域横断先教員等の参加による合同の発表会の形をとっており、中間発表での研究過程の内容及び最終の研究成果発表、研究報告書の内容をもって評価する。

教科書等

必要に応じて、横断先教員より資料の配布、参考図書等の紹介がある。

担当者プロフィール

備考

科目名	特別造形総合演習 I
単位数	2.0
担当者	博士後期課程指導教員全員
履修時期	通年
履修対象	1年
概要	この演習では、理論系教員と実技系教員が共同で研究指導にあたる。学生の研究志向に応じて、作品の理論研究と創造的制作研究との二つの面の総合的指導を行う。
科目の到達目標	実技創作研究を自覚的に深めるとともに、それを踏まえて、美学・美術史の理論の研究を進め、論文作成の能力を身につける。
受講要件	博士後期課程1年次の学生。
事前・事後学修の内容	論文のテーマ設定、文献の調査と読解などを学生各自が進める。
講義内容	<p>【理論系】 ○美学の分野では、伝統的ヨーロッパの古典美学から現代美学に至る思想の流れを踏まえて、現代における芸術創造に関わる問題について、その基礎論を固めるべく指導する。 ○東洋・日本美術史の芸術論や造形芸術に関する研究史を踏まえて、各自の問題関心を分析的に捉えられることを目指し、そのための基本的な研究方法を指導する。</p> <p>【実技系】 〔絵画領域〕 (日本画研究) 学生の研究志向に応じ、技法及び材料の理解と表現の分析、テーマの選定に関し指導する。その指導にあたっては、分担または合同であったり、理論系教員を加えて共同で行う。 ○学生の研究志向に応じ、研究テーマを明確にし、理論研究を深め、より専門的な創作実践の指導をするとともに、日本画研究全体の監修を行う。 ○将来にわたる自主的研究、制作活動の礎となるテーマの深化とこれに必要な技法、表現能力向上のための理論的研究手法獲得を目指して指導を行う。 ○日本画の制作及び古典作品の模写から材料、技法、表現についてより専門的な指導をする。 (油絵研究) 学生の研究志向に応じ、油絵の伝統技法、特にその根底にある写実の精神についての研究を踏まえ、指導する。その指導にあたっては、分担または合同であったり、理論系教員を加えて共同で行う。 ○現代社会における芸術と人間の在り方を軸に、新しい絵画表現を模索する方法論の追及、指導をする。 ○西洋絵画の本質的な意義を探求するとともに、表現の出発点を明確にする。 ○構築した理論と実制作との合致を前提に、主に実技面の指導をする。</p> <p>〔彫刻領域〕 学生の研究志向に応じ、以下の指導を行う。 ○石彫を中心として、環境に関わる造形研究を進めながら、彫刻創造の背景となる精神性や歴史、風土の考察をし、理論系教員との連携を図りつつ、制作・理論の両面から指導していく。 ○金属、ミクストメディアを中心に造形研究を進めながら、学生の作品制作に関わる表現欲求を言語として引き出し、理論系教員と連携を図りながら制作・理論の両面から指導していく。 ○ミクストメディア等を中心に指導し、それらの素材研究を含む造形研究と理論的研究を行う。</p> <p>〔造形計画領域〕 (デザイン研究) 高度なデザイン分野における表現研究を深め、博士号申請に関わる、創造的制作研究と理論研究との二つの面から総合的指導を行う。 ○プロダクトデザインを中心に人間生活の中でのモノのありようを考察し、理論系教員と連携し研究指導を行う。 ○映像メディア造形分野における映像制作表現を中心に、その先進性、独自性の提示を主題として研究指導を行う。 ○視覚造形領域を中心に、人間社会に於けるヴィジュアルコミュニケーションについてVerbalCommunicationとNonverbalCommunicationという両面から考察し、造形表現とその理論研究の指導を行うとともに、デザイン研究全体の監修を行う。 ○作品とその背景を明らかにし、作品の意味性と社会性をより具現化した形で、発表活動につなげる指導研究を行う。 (工芸研究) 実材系分野である工芸において各々の創作表現研究を探究するとともに、作品の理論研究も指導し、作品と理論の二つの面での総合的な指導を行う。 ○金属造形を中心に、各自の研究テーマにおける造形と理論の整合性をはかりながら、独創的な造形研究が行なえるよう、総合的に研究指導を行う。 ○金属造形の作品制作を通して、各自の制作理論の構築へと繋がるよう、制作と理論の総合的な見地から指導する。 ○染織造形分野を中心に、各々のテーマに応じた創作研究が、造形的及び理論的両面において展開されているか、理論系教員との連携により複合的に研究指導を行う。 ○漆造形分野では、各々の造形研究における歴史的観点、科学的観点、社会的観点等、多角的視点より理論研究を行い、より独創的な研究を指導する。</p>
評価方法	論文においては、次の5つの事項について総合的に評価する。 1 テーマ。問題意識の明確さ。 2 文献的的確性。調査研究の質、引用や参照の仕方。 3 オリジナリティ。内省する力と自己の思索を展開する力。

	4 構成力。論点や論旨の整備、論述の整序、説得性。 5 表現力。整合性のある明晰な文章。
教科書等	各自のテーマに沿って指示する。
担当者プロフィール	
備考	

科目名	特別造形総合演習Ⅱ
単位数	2.0
担当者	博士後期課程指導教員全員
履修時期	通年
履修対象	2年
概要	この演習では、「特別造形総合演習Ⅰ」に引き続き、理論系教員と実技系教員が共同で研究指導にあたる。学生の研究志向に応じて、作品の理論研究と創造的製作研究との二つの面の総合的指導を行う。
科目の到達目標	「演習Ⅰ」の成果を踏まえて、実技創作研究を自覚的に深めるとともに、美学・美術史の理論的研究をさらに進め、論文作成の能力を身につける。
受講要件	2年次の学生。
事前・事後学修の内容	3年次の博士号申請を見据えて、論文のテーマ設定、文献の調査と読解などを学生各自が進め、論文執筆を進める。
講義内容	<p>【理論系】 ○美学の分野では、伝統的ヨーロッパの古典美学から現代美学に至る思想の流れに徴して、それらを批判的に摂取しつつ、現代における造形芸術の創造的製作の深みに内在する美学的諸問題について指導する。 ○東洋・日本美術史の芸術論や造形芸術史の知識に基づき、各自の論文執筆において学術的な手法による論理展開ができるように指導する。</p> <p>【実技系】 〔絵画領域〕 (日本画研究) Ⅰにおける研究成果を踏まえ、より高度で幅広い表現能力の開発を図るべく指導する。その指導にあたっては、分担または合同であり、理論系教員を加えて共同で行う。 ○日本画制作のより高度で幅広い表現能力の開発、展開を図るべく指導するとともに、日本画研究全体の監修を行う。 ○将来にわたる自主的研究、制作活動の礎となるテーマの深化とこれに必要な技法、表現能力向上のための理論的研究手法獲得を目指して指導を行う。 ○日本画の古典研究、作品の模写からより専門的な技法・材料の研究を深め日本画制作への展開を図るべく指導する。 (油絵研究) Ⅰにおける成果を踏まえ、現代の絵画表現と、より深い理念の確立に向けた研究を重視し、指導する。その指導にあたっては、分担または合同であり、理論系教員を加えて共同で行う。 ○Ⅰを踏まえ更に、歴史的な絵画表現の流れを意識しながら、絵画創作の契機を客観的に具体化・言語化し、制作の連続性と継続性を確認させる。 ○西洋絵画の動向性を探求するとともに自己の創作活動の目標を明確化する。 ○Ⅰでの考察に裏付けられた、質的にも量的にも充分な制作を求める。</p> <p>〔彫刻領域〕 Ⅰにおける成果を踏まえ、より実践的、自立的に研究制作ができるよう指導するとともに、博士号申請に関わる論文と作品の指導を行う。 ○石彫を中心として、環境に関わる造形研究をさらに進め、彫刻と精神、場の関係を理論的に探究するよう、理論系教員と連携を図りながら制作・理論の両面から指導する。 ○金属、ミクストメディアを中心に造形研究をさらに進め、学生の表現欲求を理論的に探求するよう、理論系教員と連携を図りながら研究指導する。 ○ミクストメディア等を中心に造形研究を進め、現代に生きる彫刻作家としての意義について思索し、制作と理論の両面から指導する。</p> <p>〔造形計画領域〕 (デザイン研究)Ⅰに引き続いて、その研究成果を踏まえ、各々その創造的製作研究を探究させ、その根源を支える理論を確立するため、研究指導を行う。合わせて、博士号申請に関わる作品と論文について指導する。 ○プロダクトデザインを中心に人間生活の中のモノのありようを考察し、より高次の思考、表現を実現するため理論系教員と連携し研究指導を行う。 ○映像メディア造形分野における電子メディア表現を中心に、その先進性、独自性の提示を主題として研究指導を行う。 ○視覚造形領域を中心に、前年度の研究成果を踏まえより高度な造形表現とともにその理論研究の指導を行うとともに、デザイン研究全体の監修を行う。 ○作品とその背景を明らかにし、作品の意味性と社会性をより具現化した形で、発表活動につなげると同時に、社会におけるプレゼンテーションのあり方の研究指導を行う。</p> <p>(工芸研究) Ⅰにおける研究成果を踏まえ、各々その創作表現研究を探究し、その根源を支える理論を確立するための研究指導を行う。合わせて、博士号申請に関わる作品と論文についての指導にあたる。 ○Ⅰの成果をもとに、金属造形におけるより高い創造的表現研究に繋げ、独創的な研究内容としていけるよう引き続き理論的側面を加えた総合的な研究指導を行なう。また、工芸研究全体の監修を行う。 ○Ⅰを基に、金属造形の創造的製作研究をより深めるとともに、博士号申請を目標とした確固たる制作理論が構築できるよう指導する。 ○染織造形を中心にⅠの研究成果を踏まえ、各々のテーマに応じた創作研究が、造形的及び理論的両面において更なる発展を遂げているか、理論系教員との連携により総合的に研究指導を行い、博士号申請に導く。 ○Ⅰの研究成果を踏まえ、海外や他研究機関との共同研究及び、今後の展開を主とした研究指導を行う。</p>

評価方法	論文においては、次の5つの事項について総合的に評価する。 1 テーマ。問題意識の明確さ。 2 文献的的確性。調査研究の質、引用や参照の仕方。 3 オリジナリティ。内省する力と自己の思索を展開する力。 4 構成力。論点や論旨の整備、論述の整序、説得性。 5 表現力。整合性のある明晰な文章。
教科書等	各自の研究テーマに沿って指示する。
担当者プロフィール	
備考	

科目名	美学特講
単位数	2.0
担当者	教授 関村 誠
履修時期	通年
履修対象	1・2年
概要	現代の芸術文化の状況に組み込まれ、さらに新たな文化創造に寄与していく造形作家は、文化を成立させている基盤とそこでの人間の感性の特質を捉えつつ、創造活動のあり方に対して批判的に検討を加えていかねばならない。それによって、作家は自らの制作の精神的基礎を固めることができる。この講義では、こうした思索の深化と批判精神の練成に向けて美学・哲学の諸問題を考察する。
科目の到達目標	自分の制作にとっての重要概念について考察を深め、それを言語表現し理論構築する力を身につける。
受講要件	制作における問題を美学的観点から考察したい学生。
事前・事後学修の内容	美学・哲学的な問題を、自らの創造における探究に引き寄せて考察する。美学にかかわるテキストの読解によって、思索内容の理論的な組み立て方を学ぶ。
講義内容	以下の項目を講義で扱う。 1前期ガイダンス 2かたち 3型と像 4形式と内容 5模倣理論 6写実と模倣 7うつし 8複製、コピー、模倣 9口頭発表と議論(「かたち」について) 10口頭発表と議論(「うつし」について) 11口頭発表と議論(型の機能について) 12口頭発表と議論(写実の意味について) 13口頭発表と議論(現れの受容について) 14口頭発表と議論(現れの創造について) 15前期の総括 16後期ガイダンス 17感性 18共通感覚 19口頭発表と議論(共通感覚について) 20芸術と狂気 21口頭発表と議論(芸術と狂気について) 22仮面と顔 23口頭発表と議論(仮面と顔について) 24芸術と精神分析 25口頭発表と議論(芸術と精神分析について) 26芸術と場 27口頭発表と議論(芸術と場について) 28記憶と想像 29口頭発表と議論(記憶と想像について) 30議論の総括
評価方法	レポート
教科書等	講義の中で参考書を指示する。
担当者プロフィール	東京芸術大学で博士(美術)、ブリュッセル自由大学で哲学博士を取得。古代ギリシアを中心とする哲学・美学を専門としている。主な著書は『像とミーメシス プラトンからの美学』勁草書房、Platon et la question des images, Ousia, Bruxelles.
備考	

科目名	日本美術史特講
単位数	2.0
担当者	准教授 城市 真理子
履修時期	通年
履修対象	1・2年
概要	授業形態《講義》日本の絵画史の基軸となっている「やまと絵」と「漢画」の位相がダイナミックに変化する中世から近世初期の絵画史を主に扱い、絵画が求められた場と価値観のもとでの絵画の主題・表現の変化とその展開の様相について、また、絵師たちの制作手法や意識について考察する。講義と関連して受講者に課題を出す。その課題について、受講者が調べて発表を行う。
科目の到達目標	中世から近世初期の絵画史を多角的に学ぶことで、より深く美術作品を解釈する能力を高める。
受講要件	展覧会鑑賞の小レポート作成のため、入館料(500～1000円程度)等が必要。
事前・事後学修の内容	日本美術の展覧会の鑑賞・日本美術関係の読書を日頃から積極的におこない、美術作品を見る目や知識を養って欲しい。
講義内容	1 概要説明—主題とかたち 2 神仏の表現(1)仏像の図像と尊格・時代様式 3 神仏の表現(2)曼荼羅・垂迹画 4 神仏の表現(3)禅宗絵画の散聖 5 人の表現(1)肖像画 頂相 御影 6 人の表現(2)人物像 文人図様 美人図 7 山水の表現(1)中世のやまと絵と水墨画の山水図 8 山水の表現(2)瀟湘八景と西湖 9 説話画・物語絵の主題と図様 10 動物の表現と意味—絵画と工芸— 11 植物の表現と意味—絵画と工芸— 12 発表とディスカッション(1)道釈人物 13 発表とディスカッション(2)山水 14 発表とディスカッション(3)花鳥 15 前期のまとめ 16 狩野永納『本朝画史』にみる中世近世絵画の見取り図 17 価値づけの歴史 18 絵画の形状と表現—やまと絵と漢画 19 障壁画・屏風絵 20 絵巻・図巻 21 画帖・扇面画 22 掛け軸 23 言葉と絵画(1)—物語絵・説話画 24 言葉と絵画(2)—詩画軸 25 洛中洛外図と風俗画—名所絵・遊楽図・美人図 等 26 異国のイメージ—南蛮・天竺・中国 等 27 発表とディスカッション(1)形態と表現 28 発表とディスカッション(2)主題と表現 29 発表とディスカッション(3)言葉と美術 30 前期のまとめ
評価方法	①前期・後期のレポート 60% ②授業期間中の課題(発表)等 40%
教科書等	参考書等は授業中に紹介する。また、授業用プリントを配布する。
担当者プロフィール	日本美術史、特に中世・近世絵画を専門とする。博物館・美術館学芸員として、古美術は幅広いジャンルを扱った経験がある。
備考	一部、特別講師による講義が入ることがある。

科目名	西洋美術史特講
単位数	2.0
担当者	非常勤講師 京谷 啓徳
履修時期	通年
履修対象	1・2年次
概要	キリスト教主題とギリシア・ローマ神話主題の絵画は、近代以前に描かれた西洋絵画の大半を占めるといっても過言でない。この講義では、おもにルネサンス期の作例を取り上げつつ、図像学的観点から、これらキリスト教主題およびギリシア・ローマ神話主題の絵画について考察する。【授業形態：講義】
科目の到達目標	ルネサンス絵画の主題について理解する。
受講要件	特になし。
事前・事後学修の内容	事前・事後学習のためのプリントを配布する。
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 聖書の視覚化——ヴェネツィア、サン・マルコ聖堂の《天地創造》と《原罪》 3. 主題と変奏——ルネサンスの《受胎告知図》をめぐって 4. 『ダ・ヴィンチ・コード』とレオナルド《最後の晩餐》 5. ルネサンス絵画に見るキリスト教の死生観 6. ボッティチェリの神曲素描——異時同図表現について1 7. 都市と守護聖人——カルパッチョ《聖マルコのライオン》をめぐって 8. キリスト教中世における異教神の残存 9. ボッティチェリの神話画1——《ヴィーナスの誕生》と《プリマヴェーラ》 10. ボッティチェリの神話画2——《パラスとケンタウロス》と《ヴィーナスとマルス》 11. 《ナスタジオ・デリ・オネスティの物語》——異時同図について2 12. 神々の館ヴィッラ・ファルネジーナ1——ガラテアの勝利 13. 神々の館ヴィッラ・ファルネジーナ2——プシュケの開廊 14. 神話画尽し——パラッツォ・ファルネーゼの神話画のギャラリー 15. まとめ
評価方法	レポートによる。
教科書等	講義中に紹介する。
担当者プロフィール	九州大学准教授。博士(文学)。イタリア美術史を専門とする。主な著書は、『ボルソ・デステとスキファノイア壁画』『もっと知りたいボッティチェリ』『凱旋門と活人画 儂きスペクタクルの力』
備考	

科目名	デザイン史特講
単位数	2.0
担当者	及川久男 教授
履修時期	通年
履修対象	1・2年
概要	近代デザイン史における時代背景、思想、理念の形成、運動の展開をふまえ、高度化し、かつ、クロスオーバーしつつ展開される現代の造形表現の発展形態を探るとともに、新たな表現と創造の役割と可能性を探求する。
科目の到達目標	近代デザイン史を踏まえつつ、与えられたテーマについてより深く考察し考察する。
受講要件	前期の「デザイン概論(近代デザイン史)」を履修すること
事前・事後学修の内容	受講生各自の博士課程に於ける主研究テーマを軸に講義を行なうので、講義開始にあたって事前のミーティングを行なう。 ポートフォリオ提出のこと。
講義内容	受講生各自の研究テーマに内在する社会的意味及び意義についての思考を深め、新たな展開と進展を探求する。各自の表現制作とデザイン領域の歴史的背景を軸とした資料やリアルタイムなデータを素材として行なう。
評価方法	レポートの提出(講義期間中3回を予定) 期末デザインの歴史上のテーマを設定し90分のプレゼンテーションを行い評価する。
教科書等	特になし
担当者プロフィール	本学のホームページ参照
備考	

科目名	東洋美術史特講(彫刻・工芸)
単位数	2.0
担当者	非常勤講師 後藤 恒
履修時期	通年(集中)
履修対象	1・2年次
概要	東南アジア大陸部にあたるインドシナ半島には古来、民族や信仰を異にする様々な国家が興亡し、複雑な歴史が紡がれる過程で多様な文化が育まれてきた。その遺産として今も私たちを魅了する遺跡、彫刻、工芸の数々は、それぞれどのように生まれ、何を私たちに語ってくれるのか。タイ、カンボジア、ミャンマーにおける仏教及びヒンドゥー教の美術を軸として、歴史に名を刻む覇王の信仰から名もなき人々の日常の信仰まで、インドシナ半島に展開した宗教美術の歴史を辿る。【授業形態:講義】
科目の到達目標	日本ではあまり知る機会のないインドシナ半島の美術、その造形的魅力について理解を深める。
受講要件	芸術学研究科所属
事前・事後学修の内容	事前にアジアの地図を熟覧しておかれない。
講義内容	第1回 オリエンテーション「東洋」「美術史」「アジア」 第2回 仏教東漸 北伝仏教の美術 第3回 仏教東漸 南伝仏教の美術 第4回 先史のインドシナ半島 第5回 タイの美術Ⅰ ドヴァーラヴァティー王国時代 第6回 タイの美術Ⅱ スコータイ王朝時代 第7回 タイの美術Ⅲ アユタヤ王朝時代 第8回 インドシナ半島の陶磁 第9回 仏像とヒンドゥー神像 第10回 ブッダへの祈り「つくる」「ささげる」 第11回 カンボジアの美術Ⅰ 前アンコール時代 第12回 カンボジアの美術Ⅱ アンコール王朝時代 第13回 カンボジアの美術Ⅲ アンコール・ワット美術とはなにか 第14回 ミャンマーの美術Ⅰ パガン王朝時代 第15回 ミャンマーの美術Ⅱ 少数民族の造形
評価方法	授業態度と筆記試験による。
教科書等	なし
担当者プロフィール	福岡市美術館学芸員。東南アジアの古美術を中心に様々な展覧会企画を行っている。『掌のほとけ—インドシナ半島の埴仏』(2008)、『中国陶磁の5000年—森田コレクション』(2010)、『緑青の美—東南アジアの青銅美術展』(2013)、『アンコール・ワットへのみち—神々の彫像』(2015)など。
備考	

科目名	現代美術史特講
単位数	2.0
担当者	准教授 石松 紀子
履修時期	通年
履修対象	1・2年次
概要	日本の現代美術に関する主要な言説や美術批評を読む。社会的な文脈を理解しながら、自らの芸術理解を歴史的な視点で捉えて、現代美術に関する思考を深める。(授業形態: 演習)
科目の到達目標	現在の美術状況について歴史的な視点で考察する力を身につけることができる。
受講要件	特になし。
事前・事後学修の内容	事前に指定されたテキストを読む。
講義内容	各講義で論文を読み、検討を加えていく。参加者は学期中に数回は発表を担当する。 1 イントロダクション 2 1960-70年代(フルクサス他) 3 1960-70年代(「人間と物質」他) 4 1960-70年代(万博) 5 1970-80年代(もの派他) 6 1970-80年代(環境とコミュニティ) 7 1970-80年代(アヴァンギャルド後の絵画) 8 1970-80年代(消費文化) 9 1980-1989年(建築とデザイン) 10 1980-1989年(ニューウェーブ) 11 1980-1989年(ミニマリズム) 12 1980-1989年(コンセプチュアリズム) 13 1980-1989年(ロカリティとグローバル・アート) 14 展覧会見学 15 まとめ
評価方法	発表・課題(50%)、レポート提出(50%)
教科書等	"From Postwar to Postmodern art in Japan 1945-1989", The Museum of Modern Art, New York, 2012
担当者プロフィール	
備考	

科目名	現代表現研究 I
単位数	8.0
担当者	教授 鰐澤 達夫
履修時期	通年
履修対象	博士前期1年
概要	作品制作とプレゼンテーションの両立を計ための計画、準備、 リサーチの方法を研究する
科目の到達目標	個々のプレゼンテーション能力の向上と作品のクオリティーを計ると 同時に作品のコンセプトをよりよく第三者に理解してもらう方法を 習得する
受講要件	特になし
事前・事後学修の内容	定期的なプレゼンテーションとディスカッションを行い、 作品完成、設置までの進捗状況の検討を重ねる事
講義内容	個々の学生の作品、プレゼン、ディスカッションに応じて、適切な指導を行い、 作品のクオリティーの向上とプレゼンテーション能力の向上を目的とする また、作品とサイトの関係が良好であるか？ それによって作品から見えてくるものは何なのか？を 何度も検証、検討する事で、作品、インスタレーション相互の 完成度を高める
評価方法	コンセプトのプレゼンテーション、ディスカッションを含め、 最終的に完成した作品とサイトとの関係性を総合的に判断する
教科書等	特になし
担当者プロフィール	鰐澤達夫 教授 現代美術家 アートディレクター
備考	

科目名	現代表現研究Ⅱ
単位数	8.0
担当者	教授 鰐澤 達夫
履修時期	通年
履修対象	博士前期2年
概要	作品制作研究とプレゼンテーションの両立を計ると同時に 現代表現研究Ⅰをより進化、発展させる
科目の到達目標	個々のプレゼンテーション能力の向上と作品のクオリティーを計り、 現代表現研究Ⅰをふまえた上に、更なる向上を具体的な形で習得する
受講要件	現代表現研究Ⅰが履修済である事
事前・事後学修の内容	定期的なプレゼンテーションとディスカッションを行い、 作品完成、設置までの進捗状況の検討を重ねる事
講義内容	現代表現研究Ⅰをふまえ、個々の学生の作品、プレゼン、ディスカッションに応じて、 適切な指導を行い、作品のクオリティーの向上とプレゼンテーション能力の向上を 目的とするまた、作品とサイトの関係が良好であるか？ それによって作品から見えてくるものは何なのか？を 何度も検証、検討する事で、作品、インスタレーション相互の 完成度をより高める
評価方法	コンセプトのプレゼンテーション、ディスカッションを含め、 最終的に完成した作品とサイトとの関係性を総合的に判断する
教科書等	特になし
担当者プロフィール	鰐澤達夫 教授 現代美術家 アートディレクター
備考	

科目名	芸術学研究 I
単位数	8.0
担当者	教授 関村 誠、准教授 城市 真理子、准教授 石松 紀子
履修時期	通年
履修対象	1年
概要	演習中心の授業で、芸術理論に関わる学術研究を進めるための意義と方法論を学び、美学・美術史の諸問題の知識を得る。また、文献の分析・読解、資料調査、理論的考察を通じて、調査・研究の基本を訓練し、指導する。
科目の到達目標	芸術理論領域の学生が、美学・美術史の造形芸術に関する専門的な知識を身につけ、芸術活動の意義を理論的観点から基礎付ける能力を養う。
受講要件	芸術理論研究分野の学生。
事前・事後学修の内容	専門研究の基礎固めとして、演習の予習、さらなる文献等の検討を進める。
講義内容	<p>授業計画 次の項目を授業で扱う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1: 前期ガイダンス 2: 芸術理論研究の意義(西洋美学研究) 3: 芸術理論研究の意義(日本美学研究) 4: 芸術理論研究の意義(西洋美術史研究) 5: 芸術理論研究の意義(現代美術研究) 6: 芸術理論研究の意義(日本美術史研究) 7: 芸術理論研究の意義(東洋美術史研究) 8: 芸術理論研究の基礎(美学研究における文献読解) 9: 芸術理論研究の基礎(美術史研究における文献・資料収集) 10: 芸術理論研究の基礎(美術史研究における作品調査) 11: 芸術理論研究の基礎(美学・美術史研究における理論構成) 12: 学生報告と議論(美学) 13: 学生報告と議論(西洋美術史・現代美術) 14: 学生報告と議論(日本・東洋美術史) 15: 前期のまとめ 16: 後期ガイダンス 17: 芸術理論研究の方法(美学研究) 18: 芸術理論研究の方法(西洋美術史・現代美術研究) 19: 芸術理論研究の方法(日本美術史・東洋美術史研究) 20: 芸術理論の諸問題(西洋美学研究) 21: 芸術理論の諸問題(日本美学研究) 22: 芸術理論の諸問題(現代美術研究) 23: 芸術理論の諸問題(西洋美術史研究) 24: 芸術理論の諸問題(現代美術研究) 25: 芸術理論の諸問題(日本美術史研究) 26: 芸術理論の諸問題(東洋美術史研究) 27: 学生研究発表と議論(美学) 28: 学生研究発表と議論(西洋美術史・現代美術) 29: 学生研究発表と議論(日本・東洋美術史) 30: 授業のまとめ
評価方法	<p>提出レポートについては、次の5つの事項について総合的に評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 テーマ。問題意識の明確さ。 2 文献、引用や参照の仕方の的確性。読解・調査・分析の質。 3 オリジナリティ。内省する力と自己の思索を展開する力。 4 構成力。論点や論旨の整備、論述の整序、説得性。 5 表現力。整合性のある明晰な文章。
教科書等	そのつど指示する
担当者プロフィール	
備考	

科目名	芸術学研究Ⅱ
単位数	8.0
担当者	教授 関村 誠、准教授 城市 真理子、准教授 石松 紀子
履修時期	通年
履修対象	2年
概要	演習中心の授業で、芸術理論に関わる学術研究を専門的に進めるための意義と方法論を学び、美学・美術史の諸問題の専門的知識を得る。また、各自の研究課題にそった文献の分析・読解、資料調査、理論的考察を通じて、調査・研究の基本を訓練し、指導する。
科目の到達目標	芸術理論領域の学生が、美学・美術史に関する専門的な知識を深く身につけ、人間の感性や芸術活動の意義を理論的観点から基礎付けた上で、理論構築する能力を養う。
受講要件	芸術理論研究分野の学生。
事前・事後学修の内容	専門研究を深めた論文作成のために、演習の予習、さらなる文献等の検討を進める。
講義内容	<p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1:前期ガイダンス 2:専門理論研究の課題(美学) 3:専門理論研究の課題(西洋美術史) 4:専門理論研究の課題(現代美術) 5:専門理論研究の課題(日本美術史) 6:専門理論研究の課題(東洋美術史) 7:文献・資料の分析と検討(美学) 8:文献・資料の分析と検討(西洋美術史) 9:文献・資料の分析と検討(現代美術) 10:文献・資料の分析と検討(日本美術史) 11:文献・資料の分析と検討(東洋美術史) 12:学生の間接報告と議論(美学) 13:学生の間接報告と議論(西洋美術史・現代美術) 14:学生の間接報告と議論(日本・東洋美術史) 15:前期のまとめ 16:後期ガイダンス 17:美学研究の諸問題 18:美学研究の考察と展開 19:西洋美術史研究の諸問題 20:西洋美術史研究の考察と展開 21:現代美術研究の諸問題 22:現代美術研究の考察と展開 23:日本美術史研究の諸問題 24:日本美術史研究の考察と展開 25:東洋美術史研究の諸問題 26:東洋美術史研究の考察と展開 27:学生最終研究発表と議論(美学) 28:学生最終研究発表と議論(西洋美術史・現代美術) 29:学生最終研究発表と議論(日本美術史・東洋美術史) 30:授業のまとめ
評価方法	<p>提出レポート、論文については、次の5つの事項について総合的に評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 テーマ。問題意識の明確さ。 2 文献、引用や参照の仕方の的確性。読解・調査・分析の質。 3 オリジナリティ。内省する力と自己の思索を展開する力。 4 構成力。論点や論旨の整備、論述の整序、説得性。 5 表現力。整合性のある明晰な文章。
教科書等	そのつど指示する。
担当者プロフィール	
備考	

科目名	国際特別研究
単位数	2.0
担当者	教授 関村 誠
履修時期	前期
履修対象	1・2年
概要	芸術理論の研究は、様々な他の分野と関連し合っている。芸術理論領域の学生が、本学国際学研究科で開講されている講義を履修し、芸術学研究科の履修単位として認定する。
科目の到達目標	芸術理論領域の学生が、国際学研究科で開講されている講義から各自のテーマに関係する科目の履修を通じて、研究内容の幅を広げ、より豊かな研究成果を目指す。
受講要件	必ず前もって希望する国際学研究科の教官と面談し承認を受けておくこと。
事前・事後学修の内容	授業の内容を事前によく確認すること。
講義内容	国際学研究科で開講されている講義。
評価方法	国際学研究科の教員による評価。
教科書等	国際学研究科の教員の指示に従うこと。
担当者プロフィール	
備考	